NUEVA

ヌエバでチャンピオンを目指せ!!

日本リーグ唯一の公式試合球

国際ハンドボール連盟公認球

JAPAN HAND BALL ASSOCIATION 検定

日本ハンドボール協会検定球



国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300W　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●３号球●32枚パネル

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200W　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●２号球●32枚パネル

molten®

株式会社モルテン

東京本社　〒130-0003東京都墨田区横川5丁目5-7

大阪・名古屋・広島・福岡・四国・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフG

巻頭言

がんばれハンドボール 10万人会の充実を



全国高等学校体育連盟理事長（元全国高体連ハンドボール部長）　高田日呂美

ハンドボールを心から愛する一人として、今回の「がんばれハンドボール１０万人会」の充実を強く願っています。これまでに、ハンドボールをプレーしたことのある人、審判や競技役員としての経験のある人、様々な大会で応援して下さった人、テレビでハンドボールファンになった人など、多くのハンドボールファミリーが団結して大きな力になることが必要です。これからの日本のスポーツを支える重要な競技種目として、大きな位置を占めることになるからです。

私は現在、文部省の保健体育審議会・スポーツ振興計画特別委員会の委員として、これからの日本のスポーツ振興計画の策定に携わっています。ここでは、生涯スポーツ社会の実現に向けた地域のスポーツ環境の整備充実と、競技スポーツとしての我が国の国際競技力の向上が課題となっています。そして、もう一つの大きな柱として、学校体育と生涯スポーツ・競技スポーツとの連携推進の施策が重要な課題となっています。

日本のスポーツ発展に、学校体育・スポーツはこれまでに数々の貢献をしてきました。これからも大きな役割を担っていくことは間違いありません。特に、学校で行われる運動部活動は、学校教育の内容を豊かにする特色ある活動として今後も一層充実していくことが望まれています。全国普通科高等学校長会の調査によれば、８８％の校長が学校週５日制の完全実施後も、部活動を学校の大切な教育活動として位置付けるとしています。

学校体育・スポーツとして始まった日本のハンドボールの今後の発展を考える時、今こそ、学校と生涯スポーツ・競技スポーツとの連携推進を強力に進めることが何より大切です。今回の学習指導要領の改訂で、小学校体育の「ボール運動」の取扱いの中で、ハンドボールの名前が初めて登場しました。今後、ハンドボールを経験する小学生が増加することが予想されます。このような状況の中で、教科体育の内容としてのハンドボールと運動部活動としてのハンドボールの実践を生涯スポーツとしてのハンドボールと競技スポーツとしての競技力の向上に結び付けていく新しい視点が必要です。

そのためには、ハンドボール愛好者が一丸となることが何より大切です。ハンドボールの益々の発展を心から願っています。

第51回
全日本総合選手権大会（女子の部）
イズミが圧倒的強さを見せ優勝

第51回全日本総合選手権大会女子の部は、平成12年２月17日より20日まで、神奈川県横浜市、横浜文化体育館を主会場に、横浜国際プール、横浜平沼記念体育館で開催された。

今大会は、すでに休部を決めた、大和銀行、ジャスコが登場せず寂しい大会となった。

優勝の行方は、イズミが１回戦から圧倒的な強さを見せ、要所要所で呉、林両選手をベンチに下げながら危なげなく勝ち上がり、国体を控え充実してきた立山アルミを34―28で下し優勝を果たした。

大会の展開は、日本リーグチームの休部による不出場が響いてか、１回戦から大味な試合が多く展開された。１回戦では、地元かながわガビアーノがオムロンに20―24と迫ったのが唯一好ゲームとなった。

今年度限りで部活動縮小を決めているOSAKI　OSOLは、２回戦で日立栃木を１点差で破り、準決勝に駒を進めた。しかしながら、準決勝では優勝したイズミの前に涙を飲んだ。

今大会、最優秀選手には呉成玉選手、優秀監督賞には林五卿選手兼任監督が選ばれた。

試合結果

《１回戦》

オムロン　24（12―6／12―14）20　かながわガビアーノ

初戦ということもあってか、両チームとも持ち味が出せないまま始まった。最初の得点はオムロン浜田のサイドシュート、オムロンはこの後、宮本のロング、浜田から大石へのスカイプレーと着実に得点していくかに見えたが、１対１のフェイントに対してややディフェンスが甘く、ガビアーノの攻撃に対して坂元・大石と連続して警告をとられ、10分過ぎには大石退場となる。一方、やや動きの硬いガビアーノも、安留のフェイント、柳原のステップシュートと徐々に加点したが、前半は12―６でオムロンのリードで終了した。後半は、オムロン後藤の退場が残っており、５人のディフェンスをうまくつきガビアーノ亀ケ谷のサイドシュートで始まった。後半は両チームとも動きが良くなりはじめ、10分には後半５―５、ところが、オムロン浜田の退場からガビアーノに勢いがつき、17分には20―17と３点差まで追い上げた。その後、オムロンは後藤のポストシュート、坂本のロングシュート。ガビアーノは安留の速攻、小澤のカットインと最後までよくねばり、後半14―12と追い上げ、合計24―20とガビアーノは敗れたもののよく健闘した。

ブラザー工業　26（14―9／12―5）14　香川銀行ＴＨ

ブラザーは菅谷、ポスト黒瀬が中心の攻撃。香川銀行は細かなパスを使ってディフェンスのすき間をねらい、一進一退のゲーム展開。25分過ぎ、香川連続得点で波に乗っていくかと思われたが、ブラザーディフェンスにうまく守られてしまい前半14―９で終了。後半開始５分、香川のミスをつき速攻で３連取。その後香川青野・前田のミドルでなんとか粘ったが、パスカットからの速攻、シュートミスから２次速攻で大きく差を広げられた。最後まで足を使い集中したブラザー工業の勝利であった。

北國銀行　23（11―7／12―9）16　筑波大学

両チームともスピードがあり、緊迫感のあるスタートで、北國のポストプレー、筑波のロングシュートと互角の立ち上がり。個々の突破力のある北國が優位に試合を進めるも、筑波ＧＫの好守があり、15分まで４―３というロースコアのゲームとなった。速攻２連取等で７―４と北國がリード、筑波サウスポー早船のトリッキーなシュートで館内を沸かせるが、11―７と北國リードで前半終了。後半に入り筑波、北國の堅いディフェンスをくずせず10分には速攻３連取で16―８とリードが広がる。その後も、北國は足のよく動くクリーンなディフェンスからの速攻で得点を重ねる。20分には筑波森本３回目の退場で失格、22―12と北國のリードも10点となる。筑波山田、早船の個人技による得点、ＧＫの好守もあったが、総合力に勝る北國が23―16で快勝した。



OSAKI OSOL 対馬選手のカットイン

立山アルミ 42（21—5／21—5）10 ムネカタ

スタートからミスが目立つムネカタに対して立山は速攻とセットの攻撃で確実に点数を重ねていき、前半10分で大差のつく試合になる。ムネカタもセンター小林を中心に攻撃をいどむが立山のディフェンスが良くうまく守られてしまう。立山は全員がスピードにのった攻撃で確実に点数をかさねていき、前半は21—５で終了する。後半も立山アルミ中塚の連続ロングでスタート。確実な守りから速攻で点数をかさねていく。ムネカタは攻撃のリズムが悪く、なかなか得点のチャンスができない。後半も一方的な試合展開となり42—10の大差の試合となり、立山アルミの勝利となる。

日立栃木 28（16—７／12—10）17 東京女子体育大学

立ち上がりから日立は沖土居を中心とした多彩な攻撃で一気に15分まで12—２と突き放す。東女体もその後ようやく速攻のリズムをつかみ始め、２３分までに４連取し、日立ベンチはたまらずタイムアウトを取り流れを断ち切り、16—７、日立リードで前半終了。ハーフタイムで目覚めた東女体は後半10分までに野村の気迫のプレーなどで12—18と６点差まで追い上げるが、その後は日立の鋭く強いＤＦに苦しみ、28—17でタイムアップ。新チームで臨んだ東女体にとっては荷の重い一戦となった。

OSAKI OSOL 32（16—９／16—12）21 ソニー国分

立ち上がりＯＳＡＫＩ佐々木のインターセプトから對馬の速攻でスタートした。その後ミスの多いＯＳＡＫＩに対し、ＧＫ田代の好セーブから山田の２連続得点などでソニーも同点になったものの底力の勝るＯＳＡＫＩが16—９で前半を折り返した。後半立ち上がりからＯＳＡＫＩは穂積のロングやサイド等で着実に点数を重ね、15分で10点差となる。ソニーも山田のサイドで食い下がるが、32—21で終了した。

シャトレーゼ 38（21—５／17—６）11 徳山クラブ

立ち上がりシャトレーゼの佐藤のサイドシュートを皮切りに４連取で幕を開けた。セットのオフェンスで流れをつかめない徳山クラブに対し、速攻を重ねるシャトレーゼが15分で11—２と



突き放した。後半立ち上がり、徳山も２連取し、追い上げようと頑張ったが、最後まで集中力を切らさなかったシャトレーゼがＤＦから速攻で加点し、38—11で終了した。

イズミ 45（22—５／23—７）12 Ｊ・Ｊ GANG

イズミ青戸のサイドシュートでスタートしたゲームは、その後もイズミが点を重ねて６—０になる。Ｊ・Ｊ ＧＡＮＧも田中のロングシュートで反撃するが、イズミの固い守りを攻めきれず前半を22—５で終了した。後半から出場した林から出される多彩なパスから点を重ねるイズミに対して山崎のロングシュート等で必死に食い下がろうとするＪ・Ｊ ＧＡＮＧだが、正ＧＫの負傷により、即席ＧＫがスタートからコートに立つという不運も手伝い、試合は一方的なものとなってしまった。

準々決勝

オムロン 19（７—８／12—７）15 ブラザー工業

オムロン隅の先取点に始まり、ブラザー服部が取り返すといったスタートとなったが、ブラザーはフットワークを使った１：５ディフェンス、オムロンは高さを生かした０：６ディフェンスが両チーム共攻めきれずミスが目立った前半になり、８—７とブラザーリードで前半を終了した。ブラザー１点リードで迎えた後半、オムロン藤長の速攻が決まり同点になる。前半機能していたブラザーの１：５ディフェンスの足が止まり、オムロン大石のロングが効果的に決まり、リードを広げた。途中ブラザーも黒瀬のロング、鎌田の速攻と14分過ぎに同点まで追いついたが、最後までディフェンスから速攻のリズムを徹底したオムロンが走り勝った。しかし、お互いミスが目立ち、19—15のロースコアで終了した。

立山アルミ 28（９—10／19—10）20 北國銀行

試合開始早々、北國銀行センター上出からのパスを中村がカットインして得点し、速攻・ペナルティースロー・サイドシュートなどで５点連続得点して試合が始まった。一方、立山アルミは、前山・中塚のサイドシュートや相手の速攻を中盤でカットし得点を重ねていこうとするが、ＧＫ沖園の好守にはばまれ、なかなか得点できない。その後、北國銀行は上出のキープ力あるプレーを中心に得点し、立山アルミは崔のロングシュートなどで得点し、10—９で北國銀行リードで前半を折り返した。後半に入り、立山アルミは北國銀行上出にマンツーマンをしかけ、つき離しにかかった。北國銀行も立山アルミ崔・劉にダブルマンツーをしかけて反撃に転じたいところだったが、及ばず28—20で立山アルミが勝利した。

OSAKI OSOL 26（12—11／14—14）25 日立栃木

共に小柄なチームで戦い方もスピードを生かした攻撃と足を使った積極的なディフェンスの持ち味の両チーム。開始から気迫の勝るＯＳＡＫＩがミドルシュート・サイドシュートで日立のペナルティをはさみ、４点先行する。日立は沖土居、中村、韓らの３回退場などでピンチに立たされたが、９—６とよく踏ん張った。その後一進一退のゲームで12—11、１点差でＯＳＡＫＩリードで前半終了。後半も前半同様、取ったら取り返す展開。11分40秒、日立司令塔沖土居３回目の退場で失格。13分30秒にＯＳＡＫＩも對馬のけがで

の退場。同様のチーム状態になる。24分には逆転をした日立だが、28分ペナルティースローをＯＳＡＫＩ金丸にキープされ、集中力が切れたところ、残り50秒でスカイプレーにて得点されゲームを決められてしまった。最後まで息の抜けない好ゲームであった。

イズミ 30 (14—8 / 16—13) 21 シャトレーゼ

スピードとテクニックを武器とするイズミ、高さと強さを武器とするシャトレーゼ。チームカラーがはっきりと異なる両チームの戦いは、イズミ橋詰のポストプレー、林のステップシュートでイズミが先行した。これに対し、シャトレーゼもハンセンのロングシュートで対抗し、双方とも持ち味を発揮した立ち上がりとなった。時間の経過とともに、イズミのディフェンスがシャトレーゼの攻撃に対応できるようになり、20分までに、11—6とイズミがリードした。シャトレーゼはゲームの流れを変えるべく、ＤＦシステムをマンツーマンとするなど、粘りをみせ、前半は14—8と6点差にとどめた。後半に入り、イズミのディフェンスは、さらに磨きがかかり、守って速攻というパターンで着々と加点した。シャトレーゼも最後まであきらめない闘志をみせたが、最終的には30—21とイズミが余裕を持って逃げ切った。

準決勝

立山アルミ 26 (16—9 / 10—11) 20 オムロン

【立山アルミ】			【オムロン】		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
0	浅井	1	1	山口	0
0	三浦	2	2	坂元	3
11	崔	4	4	指野	0
3	前山	5	5	林	3
2	新畑	8	6	宮本	3
3	山崎	9	7	浜田	2
0	佐竹	10	8	藤長	1
1	新屋	11	9	後藤	3
0	本間	12	10	隅	2
3	中塚	14	11	大石	2
0	佐藤	16	12	吉田	0
3	劉	17	13	安心院	1
26 計	(浜田・小笠原)				計 20

前半開始早々、オムロンの速攻でオムロンペースで試合が進んだ。オムロンＧＫの好守、立山崔のシュートで20



ミドルをねらう、沖土居選手（日立）

分まで一進一退の攻防。21分過ぎより立山アルミ新屋の速攻、崔のロング、劉の7ｍスロー、山崎のサイドシュートで25分までに5点差でペースをつかんだ。オムロンも隅のロング、速攻で点差をつめるが、崔のロング、山崎のサイドシュートをオムロン止めることができず、立山アルミペースで前半終了。後半開始早々、立山アルミ崔にマンツーマン。その間オムロン坂元ロングでペースをつかむかにみえたが、立山アルミ中塚が6分に退場している間、得点をあげることができず点差は縮まらず。その後一進一退のゲーム展開となる。オムロンも残り2分点差を詰めたが、前半のリードが最後まで詰めることができず、試合終了。

イズミ 25 (17—8 / 8—10) 18 OSAKI OSOL

【イズミ】			【ＯＳＡＫＩ】		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
0	高森	1	2	川村	0
2	広瀬	2	5	佐々木	2
4	藤澤	3	6	江連	4
4	青戸	4	7	鵜狩	4
5	橋詰	5	8	佐久川	5
3	河本	6	9	穂積	3
2	林	7	11	酒井	2
1	岩本	8	12	後藤	1
0	長木	9	14	高橋	0
4	呉	10	16	金丸	4
0	村上	12	17	佐藤	0
0	小島	14	18	高屋	0
25 計	(家永・福島)				計 18

前半開始5分、ＯＳＡＫＩ佐久川、川村の7ｍスロー、鵜狩の得点で3—0とＯＳＡＫＩペースでスタート。一方イズミも橋詰のポストシュート、呉のロングで同点。8分過ぎより一進一退の攻防が続く。13分過ぎ、ＯＳＡＫＩ川村のロング、鵜狩の速攻でＯＳＡＫＩペースになるかに見えたが、イズミ呉のロング、岩本の得点で同点。17分、イズミ橋詰の粘り強いポストプレーでリード。ＯＳＡＫＩ穂積がそのプレーで退場。これを境に藤澤、林の速攻、サイドシュートでジワジワとイズミペースに。22分には6点差、25分までに青戸の7ｍスロー、カットインで8点差に。その間、ＯＳＡＫＩの7ｍスローを2本ミスするのに対し、イズミは終了間際にダブルスカイを決め9点差で前半を終了。後半、イズミのポストシュートのミスで、ＯＳＡＫＩペースになるかに見えたが、10分、呉の速攻でイズミの10点リード。ＯＳＡＫＩ、16分に佐久川のスカイプレーを決めるが、点差は縮まらず。残り10分を過ぎてイズミが攻めあぐんでいる間にＯＳＡＫＩ江連、佐々木、佐久川、川村の連続得点で7点差までにしたが、前半の9点差が大きかった試合だった。



成長著しい、イズミ河本選手のロング

決勝

イズミ 34 (18—15 / 16—13) 28 立山アルミ

【イズミ】			【立山アルミ】		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
0	高森	1	1	浅川	0
1	広瀬	2	2	三浦	0
3	藤澤	3	4	崔	10
3	青戸	4	5	前山	5
5	橋詰	5	8	新畑	2
2	河本	6	9	山崎	2
6	林	7	10	佐竹	0
2	岩本	8	11	新屋	1
12	呉	10	12	本間	0
0	村上	12	14	中塚	5
0	杉本	13	16	佐藤	0
0	小島	14	17	劉	3
34 計	(浜田・小笠原)				計 28

イズミのスローオフでスタートした決勝戦。イズミ呉のシュート、青戸の速攻などで4—0、立山アルミは4分、崔がようやくカットインを決め、4—1とする。10分、立山アルミは前山のサイド、さらに崔がゴールを決め7—5と追い上げる。しかし、林の正確なプレーで得点を重ねるイズミが主導権を握る。立山アルミは崔のすばらしい

アシストによる点、GK本間の好セーブで残り10分13—11とし、イズミのスカイプレーと立山アルミ劉の気迫あふれるプレーで一進一退が続くが、残り5分に立山アルミ劉が負傷退場し、ゲームの流れは完全にイズミとなり、前半18—15で終了。後半、立山アルミ劉のシュートでスタート。イズミも呉が連続ゴール、両チームに退場者が出るここで流れをつかんだのは立山アルミ。10分、1点差とする。12分、ペナルティーを決めてついに同点。ゲームは好セーブ、好プレーが続き、決勝にふさわしい大接戦となる。しかし、終盤イズミが守りから速攻で走り続け、藤澤のサイドで7点差をつける。ここで立山アルミはタイムアウト、ダブルマンツーに出る。追い上げるが、イズミは河本ががんばり、34—28でイズミが逃げ切った。

◇モルテンが退場タイマーを制作

昨年12月に行われた全日本総合選手権（男子の部）から、「ハンドボール退場タイマー」が使用されている。このタイマーは、退場者の背番号と時間（2：00からスタートして減算）を表示するもの。ヨーロッパなど世界では一般的なものであるが、国内ではこれまで販売している業者がなく、今回初めて（株）モルテンが日本協会の指導を受け開発した。モデルケースとして全日本総合選手権（男子・女子）、アジア選手権にて使用され、特にアジア選手権では、国内外の関係者から高い評価を得た。

この「退場時間タイマー」を使用することによって、当然ながら選手にも観客にも残り退場時間が分かり易くなる。このタイマーを使用した試合中には、ベンチから、「あと50秒頑張れ」、「（あと）30秒で入るよ！」などの声が発せられ、特に得点差の小さい競った試合では、選手も観客も一体となって盛り上がることができた。また、選手は直感的に残り時間を捉えてスタンバイできるので、退場時間のロスを最小限にすることができる。従来のオフィシャルテーブルの両端に紙で表示する方法に比べると、選手にとっても観客にとっても分かりやすさは歴然である。

初めて使われた全日本総合選手権（男子の部）では、退場者が1チーム3名表示できるものであったが、表示が小さく見えにくいという声も上がった。それは今年1月に熊本で行われたアジア選手権兼シドニーオリンピック予選で使用されたときには改善され（全日本総合男子の部で使われたものと同じ大きさの表示器に1チーム2名表示）、大変見やすい大きさの表示となった。表示されるのは1チーム2名までだが、実際には1チーム同時に4名までメモリすることができる。早く退場した順に2名まで表示され、コートに入った順に繰り上がって表示されるしくみだ。

日本協会では今後、ハンドボールの普及につながる観客へのサービス、また、IHFスタイルに近づける努力の一環として、このタイマーの使用を推薦していく方針。

★メーカー担当者の目から

このタイマーを企画・開発するにあたっては、実際の試合ではどのような操作方法にしたら操作がしやすいのか、どのような表示にすればより分かりやすいのか、日本協会理事の方々を何度もお伺いしご意見を拝聴し、試行錯誤を重ねてやっとアジア選手権で使用されたようなスタイルが完成しました。はじめは全日本総合選手権（男子）で使用されたように1チーム3段の仕様を基本と考えていましたが、「時間順に繰り上がる設定なのだから1チーム2段にしたら表示が大きくなり、より分かりやすい」ということになり、昨年12月の全日本総合選手権（男子）には変更が間に合わないとは知りながら、思い切って2段に変更を決定したのが昨年11月。今年の1月のアジア選手権には2段表示を間に合わせようと、総力を尽くしました。その結果、アジア選手権での2段表示は大変好評を得たとお聞きし、一安心しております。

また、テーブルオフィシャルズとしてこのタイマーを使用された方々は当然、このタイマーを操作されるのは初めてということで大変不安に思われた方もおられたようですが、各大会事前に操作説明会を行い実際に操作していただくと、意外に操作が簡単であることをご理解いただけたようでした。試合当日は操作補助のため、オフィシャル席の裏に座ったこともありましたが、実際に補助が必要になったことはほとんどありませんでした。

メーカー担当者から一言アピールさせていただければ、この退場タイマーは弊社製試合時間タイマーと一緒に使っていただくのがお勧めです。「連動スイッチ」を利用すれば両タイマーを同時にスタート／ストップさせることができます。別々に操作した場合、両タイマー間に多少の誤差が発生する恐れがありますが、それを未然に防ぐことができます。実際、アジア選手権と全日本総合選手権（女子）の大会ではそのようにご使用いただきました。



◀モルテン製作の退場タイマー
一番下の段が退場表示

この退場タイマーも今年4月から発売となります。このタイマーが日本ハンドボールの益々の普及と発展のお役に立つことを願っております。また、これまで大変多くのご助言をいただいた日本協会理事の方々に心より御礼申し上げます。

平成12年度事業計画

【基本方針】

平成12年度は、国際的にはシドニーオリンピックが開催される年である。日本ナショナルチームは、男女共、1月開催のシドニーオリンピックアジア予選でこの出場権を逸した。しかしながら平成12年度には、2001年世界選手権アジア予選が開催されるが、クウェートなどのサスペンデッドもあり、長期的視野に立つNTSを軸とする強化活動の展開を進める。

日本経済はいまだ好転せず、まだ先行きが暗いとの予測がなされている。このためハンドボール界においても、財源確保の問題が重要な課題となっている。しかしながらハンドボールそのものは、世界的なスポーツとして発展を遂げており、日本協会における各種事業も拡大の一途をたどることは、確実なこととなっている。これらの事業費を安定的に確保し、安定的かつ有効な事業を展開していくための、財源確保戦略を策定していく。

また、21世紀を目前に控え、新たなハンドボールの活性化のため、時代に即した球界全体の見直しに着手していく。

1. 総務委員会

【基本方針】

（財）日本ハンドボール協会の円滑な事業推進の為、各組織間の連絡網の整備をはじめとして諸会議の設定運営、諸規程の整備をさらに進める。また、これを達成するため、規程集の作成、各種名簿の作成を企画する。平成11年度に実施された「がんばれハンドボール10万人会」については、推進委員を中心としてハンドボール協会の基盤強化のために会員の獲得策を展開して行く。

【重点施策】

1. 諸規程の整備と規程集、各種名簿の作成
2. 「がんばれハンドボール10万人会」の推進

2. 指導委員会

【基本方針】

1. 指導者の育成
   ①コーチレフェリーシンポジウム
   ②公認コーチ養成講習
   ③指導組織の整備
   ④大学におけるC級コーチ専門教科認定コースの設置について
   ⑤都道府県におけるスポーツ（ハンドボール）指導員の養成
2. 公認コーチ資格の義務づけについて
3. 海外派遣による研修と情報収集
4. 全国指導者委員会の開催
5. 技術・指導情報の広報
6. 指導体制の一貫方策

【重点施策】

1. スポーツ指導員養成講習会促進
2. 平成12年度公認コーチ養成講習会開催
3. 国体等における公的資格取得の義務づけ

3. 普及委員会

【基本方針】

1. ワールドゲームズ2001に向けて
   ビーチハンドボールの普及
   全国大会の開催（秋田）
2. スポーツ少年団からマスターズまで生涯ハンドボール体系の確立
   ①ジュニア（小学生を中心として）
   チームの育成
   郡市町村ハンドボール協会の設立促進
   市町村協会でのスポーツ教室開催・スポーツクラブの育成
   チーム設立マニュアルの作成
   ②小学生の教科ハンドボールの普及施策
   ③マスターズハンドボールの普及施策
   全国大会の日本協会主催
   ④車椅子ハンドボール等の支援
3. 中学生委員会関係
   ①全チームの登録達成
   ②チーム数減少の歯止め

【重点施策】

1. 小学生教科ハンドボールの普及と次期指導要領の改定に向けて
   研究事業の促進
   指導マニュアルの作成
   実践研究発表会の開催
   講習会の開催
2. 生涯ハンドボールを行える基盤の確立
   都道府県協会・市町村協会におけるスポーツ教室の開催
   都道府県協会・市町村協会における小学生を含むハンドボールクラブの設立
3. 秋田ビーチハンドボールの全国大会開催
   普及、レフェリーの育成
4. ワールドゲームズ

4. 競技運営委員会

【基本方針】

1. 日本協会主催、共催大会の運営・管理に当たり、各大会の連携を図る
2. 登録制度の充実を図る
3. 競技用具検定制度の充実を図る
4. 立会人制度の充実を図る
5. 予定されている国際大会（東アジア大会、大阪オリンピック）開催に向けて推進を図る

【重点施策】

1. 各大会の開催に共通理解を得る

2. 競技者登録の推進を図ると共に、登録業務の円滑化を図る
3. 競技用具の開発を図る
4. 立会人業務の充実を図るために講習会を開催する
5. 関係機関と共同して国際大会のための諸準備に当たる

■全国大会の開催
・第41回全日本実業団選手権大会
　男・女 6/29～7/2
　愛知県：中村スポーツセンター他
・第19回全国クラブ選手権大会
　東日本大会　未定
　西日本大会　未定
・第13回全国小学生大会　未定
・第43回全日本教職員大会　7/25～28
　愛媛県：愛媛県総合運動公園体育館
・第8回マスターズ大会　7/29～30
　愛媛県：愛媛県総合運動公園体育館
・第51回全国高校選手権大会
　8/7～12 岐阜県：大垣市総合体育館他
・第2回ビーチハンドボール　未定
・第5回ジャパンオープントーナメント
　男子 8/10～13
　宮城県：富谷スポーツセンター他
　女子 8/10～12
　宮城県：大和町総合体育館他
・NTS（ナショナルトレーニングシステム）8月予定　各ブロック
・第27回全国高等専門学校選手権大会
　8/5～6 北海道：釧路町総合体育館他
・第29回全国夢中学校大会
　8/22～25 沖縄県：浦添市民体育館他
・第55回国民体育大会　10/15～19
　富山県：氷見市ふれあいスポーツS
・第25回日本リーグ 10/24～3/11 各地
・男子43回・女子36回全日本学生選手権大会　11/22～26
　広島県：東区スポーツセンター他
・第52回全日本総合選手権大会
　12/12～16
　広島県：広島グリーンアリーナ他
・第9回JOCジュニアオリンピックカップ　12月下旬
・全日本実業団チャレンジ2001 未定
・第25回日本リーグプレーオフ
　3/24～25 東京都：駒沢体育館
・第24回全国高校選抜大会

■国内関連大会
・東日本インカレ　8/16～20
　山形県：東根市民体育館他
・西日本インカレ　8/8～13
　兵庫県：グリーンアリーナ神戸他
・第55回国体ブロック大会
　8月／上旬～ 各地

■国際大会
・第6回ひろしま交際大会（オールスター大会）　7月予定
　広島県：東区スポーツセンター
・2000年ジャパンカップ
　8月予定　未定
・第8回日・韓・中ジュニア交流競技大会
　8月予定　韓国
・第4回日韓スポーツ交流（派遣・受入）
　8月予定　韓国・未定
・アイスランドフェア
　9月予定　未定
・シドニーオリンピック
　9/15～10/1 オーストラリア：シドニー

5. 国際委員会

【基本方針】
1. 世界大会（オリンピック、WC）出場に向け環境づくり
・日本のハンドボール界の夢であり、メジャーになるためには日本が世界の大会にまず出場する事である。そのためには、日本が有利になるような環境が必要。
2. アジアハンドボール連盟の更なる正常化
3、国際交流の体制定着と発展

【重点施策】
1. 世界大会（オリンピック、WC）出場に向け日本が有利になる様、AHF、IHFに働きかけを実施する
2. AHF更なる正常化に向け対策を講じる
3. 国際交流の体制定着化と発展
　ドイツ、スペイン、デンマークを拠点国・チームをつくり選手、コーチを送り込む体制ができたので定着化と課題対策

6. 審判委員会

【基本方針】
1. トップレフェリー研修会
　トップレフェリーとして指名した者を集めて研修（日本リーグトレーナー・大学監督等も同席）し、これらを各全国大会の指名レフェリーとして派遣する。それぞれの審判長を助け、その大会に集まったレフェリーに研修内容を伝達し、全体のレベルアップを図る。
2. 公認A級審判審査
　A級審判員は日本リーグを運営できることができる。従って審査にも体力・技術の高いモデルゲームを運営させて、その能力を見なければならない事から、11年度初めて全日本実業団選手権大会をモデルとして実施する目標は達成できた。

【重点施策】
1. 日本リーグ担当レフェリー研修会を、その効果を見るにはもう少し時間をかけたいが、それより現実の日本リーグ運営に問題が多いゆえ日本リーグ担当レフェリー研修会を開設することが急務ではないかと思う。
　これは当然トップレフェリーが含まれるゆえ、トップレフェリー研修会はこれを吸収する。リーグ審査委員会で約30ペア程絞込み教育をする。経費的には、従来のトップレフェリー研修会費と大崎スポーツ財団の補助をこれに当てさせてもらいたい。
2. その他の行事
　その他の行事については、従来の規模で実施していく予定である。

7. 強化委員会

【基本方針】
1. 中長期（アテネ・大阪オリンピック）強化計画の策定
2. 平成12年度ナショナルチームの強化計画に基づく強化施策の推進
3. NTS（ナショナルトレーニングシステム）による一貫指導の強力展開と定着化
4. 各種アジア選手権大会・世界選手権大会での上位入賞を果たすための強化施策の推進
5. メディカルサポート体制を充実し、各

ナショナルチームが世界・アジアでの各種大会へ出場したときトップコンディションでプレーができるようにする
6. フィットネス（JOCオリンピック強化指定選手の体力測定）及びアンチ・ドーピングを推進する。

【重点施策】
1. 中長期計画に基づく強化施策の実施
2. 平成12年度各ナショナルチーム強化事業として国際大会への出場、海外遠征及び国内強化合宿等の計画的な実施
3. NTSに基づく一貫指導の実施及び指導内容の充実を図る
  (1) 指導グループ研修会の開催
  (2) 全国ブロックの指導会の実施
  (3) 医科学委員会のフォロー体制の充実
4. 次のアジア大会・世界選手権大会での上位入賞を目指した強化施策への実施
  (1) 男女アジアジュニア選手権大会及び男女ジュニア世界選手権大会出場権の獲得
  (2) 女子アジア選手権大会及び女子世界選手権大会出場権の獲得
  (3) 男子世界選手権東地区アジア選手権大会及び世界選手権大会出場権の獲得
  (4) 男女学生選手権大会
5. 医科学研究グループは、フィットネス体力適性の研究、メンタルマネージメントなどを実施する
6. 特別研究グループは、メディカルチェック、体力測定、ドーピング・コントロールなどを実施する
7. 強化関連部門との連携の強化を図る
8. ナショナル強化支援　外部団体の確保を図る

8. 機関誌委員会

【基本方針】
　平成12年度は、メディアの発達した時代に即した機関誌のあり方を検討しつつ、新しい方向性を考えて行く。
　また、協会からの情報発信のツールの1つとして充実を図る。更に、「がんばれハンドボール10万人会」推進のための告知記事を掲載して行く。

【重点施策】
1. 各全日本大会の詳細
2. 協会だより
3. 「がんばれハンドボール10万人会」会員紹介
4. 各事業報告

9. 財務委員会

【基本方針】
　日本リーグ加盟チームの減少、登録学校数の減少等、登録金収入は減少、委託金も収入減は厳しく、現経済環境にあって企業からの広告収入、寄付金収入増も協会関係者全員の努力が不可欠。
　収入面では、一昨年より着手している「がんばれハンドボール10万人会」の収入に期待することである。
　一方支出面では各事業において優先度を選びつつ効率化を進めているが、事業範囲も国内外において拡大傾向にあり、より一層メリハリのある運用が必要。

【重点施策】
1. 「がんばれハンドボール10万人会」の会員獲得に全力をあげる
2. 広告、寄付の対象の拡大とスポンサーのニーズに全面協力
3. 2002年小学校体育にハンドボールが選択科目となった機会を最大限に生かす投資の検討、実施
4. 経理会計の厳正なる運用の強化徹底

10. 企画委員会

【基本方針】
1. 中・長期スケジュールの調整と確立
2. 協賛募集活動の定着と拡大
3. 「JHA21世紀ビジョン」立案

【重点施策】
1. 中・長期スケジュールの調整とそれに伴う企画
2. 協賛募集活動の定着と拡大（協賛パンフレット作成）
3. 「JHA21世紀ビジョン」立案

11. 広報委員会

【基本方針】
1. 恒常的な広報活動計画の推進
2. メディア媒体への積極的アプローチ
3. ハンドボール文化の高揚（全員参加の啓蒙活動）
4. ナショナルチームのPR
5. インターネットによる情報発信の拡大

【重点施策】
1. メディアとの定期懇談会
2. プレスリリース
3. ハンドボール全員参加の啓蒙活動の実施
4. ナショナルチームのPR
5. インターネットによる情報発信の充実の拡大

12. 日本リーグ機構

【基本方針】
1. 日本ハンドボールリーグ機構の再構築
  A. 企業チームのあり方→地域との融合性
  B. リーグ参加チームの撤退防止対策
  C. 各チームのリーグ運営経費の削減
  D. リーグ予算（プレーオフを含む）の12％削減
2. 日本リーグ部長会議による指導と支援体制の強化
3. 日本リーグ25周年記念事業の実施と記録保存
4. 日本リーグ委員及び選手・役員の意識改革と体質改善

【重点施策】
1. 日本リーグ運営委員会の名称変更
  →日本リーグ委員会
2. 第3地域参加補助金の支払制度の確立
3. 日本リーグ25周年記念事業→東西対抗orオールスター
4. 会場立会人の選抜方法の見直しとマニュアル化
  (任務の確認と責任体制の確立)
5. 審判員の能力検査方法の具体化と資質の向上
6. 日本リーグホームページの充実（情報化の拡大とサービスの充実）
7. 記録用紙の精度向上
8. 表彰制度の見直し

2000年度 国内大会日程（予定）

	大会名	開催日程	開催地	開催場所
4月				
5月				
6月	高松宮杯 第41回 全日本実業団選手権大会	6月29日～7月2日	愛知県	中村スポーツセンター 他
7月	第20回 全国クラブ選手権大会・西	7月22日～23日	三重県	四日市ドーム競技場
	第19回 全国クラブ選手権大会・東	7月28日～30日	福島県	本宮町総合体育館 他
	第13回 全国小学生大会	7月28日～30日	京都府	田辺市中央体育館 他
	第43回 全日本教職員大会	7月25日～28日	愛媛県	愛媛県総合運動公園体育館
	第8回 マスターズ大会	7月29日～30日	愛媛県	愛媛県総合運動公園体育館
	第6回 ヒロシマ国際大会・2000年ジャパンカップ	7月27日～30日	広島県	東区スポーツセンター
	第2回 全日本ビーチハンドボール選手権大会	7月29日～30日	秋田県	本荘マリーナ
8月	第51回 全国高校選手権大会	8月7日～12日	岐阜県	大垣市総合体育館 他
	第5回 ジャパンオープントーナメント（男子）	8月10日～13日	宮城県	富谷スポーツセンター 他
	第5回 ジャパンオープントーナメント（女子）	8月10日～12日	宮城県	大和町総合体育館 他
	NTS（ナショナルトレーニングシステム）	7月～9月予定	各ブロック	
	第27回 全国高等専門学校選手権大会	8月5日～6日	北海道	釧路町総合体育館 他
	西日本学生選手権大会	8月8日～13日	兵庫県	グリーンアリーナ神戸 他
	東日本学生選手権大会	8月16日～20日	山形県	東根市民体育館 他
	第8回 東日本小学生大会	8月25日～27日	山形県	東根市民体育館 他
	第29回 全国中学校大会	8月22日～25日	沖縄県	浦添市民体育館 他
	第8回 日・韓・中ジュニア交流競技大会	8月23日～29日	韓国	全羅北道　全州市
	第4回 日韓スポーツ交流（派遣・受入れ）	8月予定		未定
9月	アイスランドフェア（仮称）	9月予定		未定
10月	第55回 国民体育大会	10月15日～19日	富山県	氷見市ふれあいスポーツセンター
	第25回 日本リーグ	10月24日～3月11日	各地	
11月	高松宮杯 男子43回・女子36回 全日本学生選手権大会	11月22日～26日	広島県	東区スポーツセンター 他
12月	第52回 全日本総合選手権大会	12月13日～16日	広島県	広島グリーンアリーナ 他
	第9回 JOCジュニアオリンピックカップ	12月25日～27日	大阪府	堺市家原大池体育館 他
1月				
2月	全日本実業団チャレンジ2001	2月11日～13日	近畿	未定
	第7回 西日本小学生ハンドボール交流大会	未定		
3月	第25回 日本リーグプレイオフ	3月24日～25日	東京都	駒沢体育館
	第24回 全国高校選抜大会	3月23日～28日	富山県	氷見市ふれあいスポーツセンター

ハンドボールフォーラム21

パネルディスカッション
スポーツ文化構築のために（2）

［コーディネーター］
杉山　　茂：スポーツマネージャー・文部省保健体育審議会委員・日本体育協会国体委員
［パネラー］
佐藤　宣践：（財）日本オリンピック委員会選手強化本部長・（財）日本柔道連盟国際委員長
岡野　昌弘：（財）日本バレーボール協会常任理事・Ｖリーグ実行委員長
金子　正子：（財）日本水泳連盟理事　シンクロ委員長・オリンピックヘッドコーチを歴任
河野　一郎：（財）日本ラグビーフットボール委員会強化推進本部長・国際ラグビー連盟　技術委員会委員
野田　　清：（財）日本ハンドボール協会常務理事

前号に引き続き、平成11年7月17日、東京・大久保駅前のホテル海洋で開催された「ハンドボールフォーラム21」における「パネルディスカッション：スポーツ文化構築のために」を掲載いたします。

日本のスポーツの進むべき道

【佐　藤】 スポーツの高度化が進んでいる今日、チャンピオンだけでは手に終えなくなってきています。これからのスポーツは次の5つのファクターに分けて考えるべきでしょう。1つは多くの人。2つ目は優れた人。3、スポーツ医科学。4、スポーツ行政。そして5つ目は理解のあるオーナーと国民。JOCではトータルシステムと呼んでいます。しかし御存じかも知れませんが、JOCは間接強化で取り組んでいるので、直接強化は各競技団体に任されます。

日本のスポーツを他国と比べますと、マネージメントの強化が遅れている点と、語学力の不足があげられます。国際行政に入っていき、ルール改正の主導権を握っていく必要があります。指導者養成だけでなく、時間をかけてでも、国際的な活動ができるスポーツマンの養成が必要でしょう。

【杉　山】 1980年代頃から言われ始めてきたみんなのスポーツというのは、社会スポーツ的なものが多くとりあげられてきましたが、チャンピオンレベルにおいてもいえることではないかと思います。金子さんいかがでしょうか。

【金　子】 本当にその通りだと思います。情熱のあるコーチがただやっているだけではもうだめでしょう。代表だけでなく全ての人が世界を身近に感じていく。チーム内においても、例えば、数値データだけを医科学スタッフに提示されても、現場の指導者たちにはなかなか通じません。そこで医科学スタッフにもっと現場に近づいてもらい、その数値の意味と対処法を一緒に考えることが必要です。それにより、年代に応じた練習の見直しも可能になります。

また海外の大会でも、臆することなく堂々と演技ができるように、日本に海外の選手が来るようにしていきました。ジャパンシンクロのような国内大会の国際化で、新しいノウハウを身に付けることができます。そこでは審判も含めて、スタッフも国際競技力を身に付けるチャンスがあります。国際大会でいいたいことを言えるようになる。国際フォーラムを日本で行う。一般の人に分かりやすいものにする。それらの効果は出始めていると思っています。しかし、選手・コーチの資質の向上は、やはり一競技団体では限界があると感じています。これからは他競技との連携を考えていこうと思っています。

【杉　山】 金子さんの芸術スポーツの分野でも、そういったお話はされているんですか。

【金　子】 新体操の方々とはしています。やはり同じようにお感じになっているようで、我々は新体操のあの柔軟性が欲しい。新体操の方は世界に出たシンクロのパワーが欲しいとよく言われます。フィギュアスケートからもお話はきていますので、今後進めていきたいと考えています。

【杉　山】 佐藤さん、河野さん。今日の日本ハンドボール協会の取り組みもそうですが、JOCではこういった各競技間の交流についてどのようにお考えですか。

【佐　藤】 大変素晴らしいことです。JOCでは、コーチ会議や夏季対策委員会、冬季対策委員会などを通じて行っていきたいと思います。

【杉　山】 日本語で話せなければ、海外で話ができるはずがないと思うのですが、日本のスポーツ界では、人間関係のせいで日本語の会議でも言いたいことが言えないことが少なくない。先程のラグビー界では言いたいことを言い合う関係が大事だとも言われています。そのあたりのところ岡野さん、今の一連の皆さんのご発言に対していかがでしょうか。

【岡　野】 私もアジアのマーケティングの仕事をさせていただいてますけど、聞くだけなら通訳がいればいいのですが、相手とのコミュニケーション、相手の言葉を適確にいただくには、話すことから始まると痛切に感じています。また、ワールドカップなど、海外の一流選手が来日する際の機会をみても感じます。

また、我々は選手を欲しているけれども、決して育てていませんでした。大型セッターの育成で感じたことです。それには、一貫性指導システムの構築と関係者の意識革命が必要と思います。そういったことへの危機感を強く感じています。

【杉　山】 総理府の発表などにもありましたが、少子化の問題は切実です。よく我々も企業、地域、少子化の3つを関連づけて話をするのですが。野田さん、大同特殊鋼では、地元の東海市と連携して地域の子供達のハンドボール教室を開いていると聞いておりますので、そのあたりのお話を聞かせていただけませんか。

【野　田】 少子化問題は切実な問題で5、6年後には18歳以下人口は30％近く減るという状態です。ということは人口の減少は明日の問題です。学校施設の開放。クラブの設立。NHKラジオ参加週1回100名、元オリンピック選手が教えてくれる。看板は東海市、運営は大同のOBが請け負うのです。器具類は企業と日本ハンドボール協会から用意してもらっています。小学生は成長が早い上に保護者の引率の数が多いです。さらに知多半島のクラブも大きくなりつつあります。基本の強化が課題で小学生から一般までの幅広い年齢層が集まります。そこで求められているものが、共通の指導法の確立でしょう。トップの強化はここから始まります。

【杉　山】 中学高校の基本スポーツが学校スポーツの崩壊を導いている。技術レベルでの交流交換はあるけれど、競技者レベル、愛好者レベルの多種目間の交流、話し合いについてはどうお考えですか。

【河　野】 単一競技種目内での一貫性を突き詰めて考えていきますと、タレントのある子供の取り合いがおこる。そこで不幸になるのは子供達です。我々は平尾プロジェクトと呼んでいるんですが、オーディション方式での育成を考案しました。ただやらされていて、たまたまできるから代表というのではなくて、やりたい選手が自ら手を上げて、選抜試験を受けるのです。

こんな例がありました。中学二年生の応募があった。サッカー部の選手。夏の合宿での合同練習に参加していただきましたが、素晴らしい技術の向上がみられただけでなく、そういった子をつぶさないように気を使うという、候補選手の精神的な向上がみられました。しかしその時に、中学校の先生からうちの選手を取るのかという抗議の電話をいただいてしまった。そんなつもりは毛頭ありません。

選手を取り合うことなしにいけないだろうか。各競技のエッセンスを組み合わせていけないか。そこが生命線だと思います。やるべきことはまだまだたくさんあるのではないでしょうか。

【佐　藤】 児童期には複数種目をやろうというのは、体協のスポーツ少年団のもともとの考え方ですが、これをもう一度確認するべき。実際に2種目3種目やっている子供はほとんどいないのではないか。取り合いはなくならないと思うが、自然発生的には選手は生まれない。アメリカのシーズン制のように計画的に行わねばならない。体協が主体となって文部省を巻き込んでいかなければならないと思います。

【杉　山】 全くその通りだと思います。スポーツ少年団というのは中高校生を他種目型課外活動ということでスタートしたはずですが、いつの間にか変わってしまった。常に言われる、地域型スポーツと学校スポーツについて、野田さんのところのような例がバレーボールでのお考えがありますか。

【岡　野】 大阪が拠点のサントリーでは、30年前に私が監督になった頃から、活動の拠点を箕面にしました。そこのトップの選手が使う体育館を、中学生に教室開放する。家庭婦人にも普及させまして、最近は教室を行うコーチ派遣する。各企業から理解を得て、体育館を開放して地元が喜ぶような事を行う。地元と企業の積極的参加を呼びかける。Jリーグの川渕さんとも話をしているんですが、その際に、私は企業の支援はもっともっとアピールしてもいいと思う。企業の支援があってこそ、大会を運営できていることをもっと謙虚に受け止めるべきです。ただ、一つの企業の負担を大きくしないために地域の方々や行政の支援をもっと呼びかける。それからクラブ大会か施設大会かとして一つの種目ではなくいくつかの種目がないと参加できないような大会があってもいいと思うのです。トップの強化はこういった地盤固めなしにはもうあり得なくなったと思う。

【杉　山】 オリンピック選手などが伝道師的な役目を担う。学校スポーツとの連携をお話になられましたがシンクロの例はありますか。

【金　子】 ありません。求められる場がないからです。私が学校スポーツに求めるのは、そういうものとは違って、30年近く指導をしていますけれども、私のところに入りたいといってくる女の子達が、年々老婆のようになっているのです。股関節が硬くて開脚も屈伸もできない。スポーツをやろうという気持ちはあっても、人間としての能力すら足りないのではないかという子供達が多いんです。専門能力を身に付ける以前に、最低限度の運動能力を学校体育の場で身に付けさせ

て欲しいと思っています。

【杉　山】 なるほど、学習指導要領に組み入れられたハンドボールが、そういったことのお手伝いを小学校においてできるか分かりませんが、単に底辺拡大とか、競技人口の増大といったことではなくて、子供達の身体能力の向上にこそ、その役割があるのではと思います。

時間がもう迫っていますがあとは、はい。

【岡　野】 先程の河野先生のお話を聞いていて痛切に感じるんですが、厳しい経済状況の中で多くのチームが休部廃部に追い込まれている。しかし本当にそれだけが原因なのだろうかと思うのです。スポーツ馬鹿やマネージメントという言葉がありましたが、我々指導者自身の魅力が欠けていたのではないだろうか？ ただ自分の経験だけでは、変わりつつある若者に対応しきれない。指導者としての確かな能力を身に付けなければならないということを再認識しています。

日本のハンドボール界に向けて

【杉　山】 ありがとうございました。それでは、皆様と約束したお時間も迫ってきましたので、最後にJOCの佐藤さんより、シドニーオリンピックを控えたこれからの日本の立場と、ご決意をご披露いただきたいと思います。そして最後に河野さんより、ハンドボール界へのメッセージ・エール・応援歌などをいただきたいと思います。それでは佐藤さんよりお願い致します。

【佐　藤】 JOCはどのようにしたら日本のスポーツが、シドニーやソルトレイクシティーで活躍できるかということを考えているわけです。まずハンドボールの皆様には是非、アジアの代表権を取っていただいて、オリンピックに出ていただきたいと思います。例えば、西武の松坂がオリンピックに出場したり、古田の出場もあります。これもJOCの前会長、堤さんの影響があると思いますが、ずいぶんプロの選手が出ます。そういったことで、最近はオリンピックに対する見方も変わってきたのではないかと思うのです。ハンドボールについては柔道と同じように、オリンピックが最高の国際大会ではないでしょうか。そのオリンピックが変わっていく。もっともっとオリンピックに国民のみなさんが引きつけられるようになるためにはプロの選手が出ることも必要だと思っています。

2つ目は先程お話しました、トータルサポート。5つの分野、多くの人、優れた選手・コーチ、スポーツ行政、スポーツ医科学、理解のあるオーナー。それぞれの競技のそれぞれの分野の人達が、お互いに認め合うことです。それによって、お互いを高め合うことができるのではないでしょうか。

3つ目は、残念ながらハンドボールの場合は、オリンピックにいけるかいけないの瀬戸際なんですが。柔道にも言えることですが、負けた時にしっかり負けを認める。そうすることで次へのアイディアが生まれてくるのではないだろうかと、河野さんのお話を聞いていたときに思いました。

もう1つ、4つ目には、これからのスポーツのあり方として、常に地球規模で考えていかなければならないことです。先程から私が国際国際と言ってきました。1つには語学の問題がありますが、国際のスポーツ団体に人材を送り込めない団体はこれからの世界で勝つことはできないんじゃないかと思うのです。

【杉　山】 ありがとうございました。日本のオリンピック協会、そして佐藤さんが指導されている多くの競技団体のシドニーオリンピックでのご活躍を、少々早いんですが、お祈り申し上げます。

それでは河野さん、ハンドボール界へのメッセージをよろしくお願い致します。

【河　野】 まあ今日お話を伺いまして、強化が全てではないと充分に認識した上ですが、やはり競技団体にとって強化が一つのバロメーターになると思うのです。その強化スタッフがやりたいことをやれて、言いたいことを言える組織を是非作りあげていただきたいと思うのです。私が今、感じていることですけれども、やはりまあ、大きなプレッシャーがあります。それをいかに守ってあげて、前に進めてあげるかです。それぞれの競技団体が、組織として生きる力を持てるかどうかのバロメーターになるんじゃなかろうかと思っています。是非、よろしくお願い致します。

【杉　山】 ありがとうございました。アメリカの有名なテニスのコーチが「不思議な勝利はあるが、不思議な負けはない」という名言を残しています。なぜ勝ったかわからない勝ちはあるが、なぜ負けたかわからない負けはない。その負けを受け止めることで次へのスタップを踏むことができる。まさしく、日本のスポーツ界、決して負けではありませんが、次々と新しいことを考え、挑戦していくことが、スポーツの良さであり、またスポーツ団体のあり方の基本であると考えます。JOCのお立場、そして各団体の方々、そしてそれぞれの指導に情熱と実績を兼ね備えている方々をお招きして、日本ハンドボール協会と日本ハンドボールリーグ機構が開いてまいりました、ハンドボールフォーラム21。お集まりいただいた方々も、他の団体の方々の考え方、あり方に初めて触れた機会ではなかったでしょうか。それは、あまりにも多くの示唆に富んだものでしたし、それはまた逆に、日本のハンドボールの明日の大きなエネルギーになるものと確信しています。僭越ではございますが、どうか皆様、パネラーの方々に盛大な拍手をお送りいただいて、今日の感謝の言葉にしたいと思います。ありがとうございました。　　　　（おわり）

日本ハンドボール協会では、「ハンドボールを通したスポーツ文化の構築」という大きな指針を掲げて活動を展開していますが、「21世紀のハンドボール」を睨んだフォーラムを開催し、21世紀に向かいハンドボールの発展を目指しています。

全日本実業団ハンドボール　チャレンジ2000

Aグループはケーブルネット氷見　Bグループは八光自動車　が制す

全日本実業団チャレンジ2000は、2月11日から13日までの3日間、愛知県体育館、ブラザー工業体育館を使って開催され、Aグループはケーブルネット氷見、Bグループは八光自動車がそれぞれ第1位となった。

■Aグループ

★aゾーン

ケーブルネット氷見	34－26	豊田合成
ケーブルネット氷見	30－21	三　景
ケーブルネット氷見	31－26	金沢市役所
三　景	28－22	豊田合成
三　景	26－24	金沢市役所
豊田合成	34－30	金沢市役所

[順位] ①ケーブルネット氷見（富山）②三景（東京）③豊田合成（愛知）④金沢市役所（石川）

★bゾーン

トヨタ自動車	42－6	北熊本自衛隊
トヨタ自動車	25－17	大阪ガス
トヨタ自動車	24－22	北陸電力
大阪ガス	12－0	北熊本自衛隊
大阪ガス	14－13	北陸電力
北陸電力	12－0	北熊本自衛隊

[順位] ①トヨタ自動車（愛知）②大阪ガス（大阪）③北陸電力（福井）④北熊本自衛隊（熊本）

★1・2位決定戦

ケーブルネット氷見	20－19	トヨタ自動車

■Bグループ

★1回戦

日本ゼオン（山口）	27－18	日本耐酸壜（岐阜）
マツダ（広島）	33－14	新日鉄名古屋（愛知）
常陽銀行（茨城）	32－17	ブラザー工業（愛知）

★2回戦

セントラル自動車（神奈川）	24－20	日本ゼオン
八光自動車（大阪）	34－10	日本原子力研究所（茨城）
自衛隊下総（千葉）	21－17	徳山市役所（山口）
日鉄建材（大阪）	26－22	マツダ
常陽銀行	31－17	日本製紙（山口）
自衛隊久里浜（神奈川）	19－15	豊田自動織機（愛知）
住友銀行和歌山（和歌山）	19－14	三洋電機（岐阜）
フクセン（福井）	30－16	神戸製鋼（兵庫）

★3回戦

八光自動車	27－8	セントラル自動車
日鉄建材	28－15	自衛隊下総
自衛隊久里浜	22－18	常陽銀行
フクセン	25－17	住友銀行和歌山

★準決勝

八光自動車	21－17	日鉄建材
自衛隊久里浜	16－14	フクセン

★決勝

八光自動車	17－14	自衛隊久里浜

★敗者戦1回戦

徳山市役所	26－17	日本耐酸壜
新日鉄名古屋	26－24	日本原子力研究所
ブラザー工業	27－26	三洋電機
豊田自動織機	27－17	神戸製鋼

★敗者戦2回戦

新日鉄名古屋	19－15	徳山市役所
豊田自動織機	21－17	ブラザー工業

★敗者戦3回戦

豊田自動織機	26－13	新日鉄名古屋

熊本技術講習会について

JHA指導委員会

以下の通り、シドニーオリンピックアジア予選の会場において、多くの参加者を集め、ＩＨＦ技術講師を招いて、表記講習会が開催された。

1．日　時

2000年1月29日（土）16：00〜18：00

2．場　所

熊本県熊本市総合体育館

3．講　師

Anna—Maria　Jakab　※通訳：重浦氏

（ルーマニア出身、現スイスナショナル女子チーム監督）

4．実技補助

男女：熊本・国府高校ハンドボール部

5．参加者

九州地区指導者を中心に

他全国指導者、現役選手



6．内　容

ヨーロッパスタイルの戦術の組み立て方、その戦術の中で、個々のテクニックをどのように発揮していくかを中心に以下のような講習がなされた。

①ボールコントロール、パステクニックについて

様々なパス：バックパス、ごろパス、ステップを踏みながらのパス

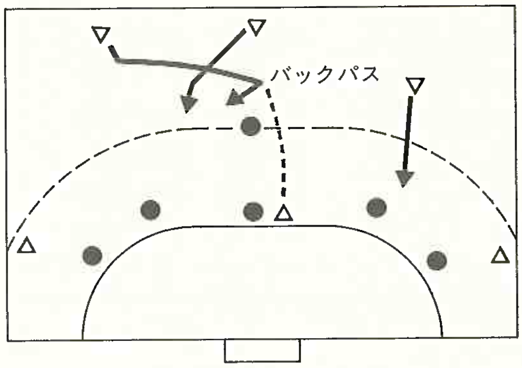
②戦術（Tactics）

ポスト（Pivot）プレーを中心に。

・6—0ディフェンスに対する攻撃方法

・5—1ディフェンスに対する攻撃方法

（例：下図）



・3—2—1ディフェンスに対する攻撃方法

③速攻法の練習

講習の中で以下の点が強調された。

○戦術を完成させるために、個々のシュートモーション、パスモーションを確実におこなえるようにする。いかにもその動作をするのだと見せかけることが大切である。

○練習中は、集中をとぎらせず、身体を動かし続けることが大切である。

○速攻練習では、シュートは絶対に決めなければならない。

（文責　小山）

講習会を受講して

熊本国府高校男子ハンドボール部顧問　鎌田雅彦

1．講習会の内容

①W-up

ランパス、シュートフェイントからのドリブル、4人組シュートブロック等。

②1対1のルーズボール

ハーフから2人並べ、後方からボールを投げ入れる。ボールをキープしたものがシューターとなる。

③45度—ポストのコンビシュート

45度ディフェンスの裏の空間を使った45度—ポストのコ

ンビシュート。
④6－0ディフェンスに対する攻撃法
センターディフェンス2枚の間にポストを配し、センターはブラインドシュートをねらいながら、ポストへ股間を通してバックパスを入れ、ポストシュート。次に、今度はバックパスフェイントからシュート、あるいはオープンへの展開。
⑤5－1ディフェンスに対する攻撃法
センターはトップディフェンスを左に寄せ、その左裏の空間にポストが瞬間的に浮いてくる。その時、センターは



バックパスを入れ、オープンに展開する。次に、同じ入りから、バックパスのフェイントから右への展開。
⑥3－2－1ディフェンスに対する攻撃法
センターと45度がクロスプレーをし、センターのパスフェイントから、サイドへのスカイプレーへとつなげる。
⑦ワンマン速攻
全力で行うように指示。

2．印象に残ったこと
まず、初めて扱う受講生に対して、感情を表にだし、ジェスチャーを交えながら、時には笑わせ、時には厳しく檄を飛ばしながらのパフォーマンスであった。それゆえ、シャイな生徒たちも徐々に慣れ親しんでいく様子が伺えた。プレーでも緩急が必要なように、指導者の表情や語る口調にもそれが必要なのかとあらためて感じた。
講義の中、ポストがボールをもらう時の足の運び方や、ボールを受けてからシュートに移るまでの体重移動の仕方、さらにはバックパスを出すタイミング・距離感等、細部に渡る指導を受ける。
その中で、大事なシュートを外すと、真剣な面持ちで厳しく幾度と無く指摘され、その後は即交替させられていた。そこには終始一貫して、シュートの大切さを伝えようとする姿勢があった。

3．今後の指導に活かしていきたい事柄
今回受講して、常にシュートチャンスを伺いながら、見



える部分プラス、見えない視野外のプレーヤーをどのように使うべきなのかをあらためて考えさせられた。同時に、相手に攻撃のきっかけ、勝負のポイントを読ませないようにすることも再確認させられた。
講習会に携わりながら、高校生には内容が高度すぎるのではと感じながらも、生徒の持っている能力を開発できるように、柔軟な姿勢で受け入れ、かみくだいて指導していきたい。

ヤコブさんの指導を受けての感想

熊本国府高校男子ハンドボール部1年　小林祐介

ヤコブさんの指導を受けての感想は、日本とは全然違ったプレーがあり、ヨーロッパのプレーがあり、ヨーロッパのプレーを教えてもらえてとても良かった。
5－1ディフェンスや、3－2－1ディフェンスの攻め方を教えてもらいました。他に、ルーズボールの競り合いや、バックパスを教えてもらいました。とても、勉強になりました。
そして、練習中は面白くて、内容のとても濃い練習ができたので、自分たちも、ヤコブさんから教えてもらったことを活かして練習をしていきたいです。

熊本国府高校男子ハンドボール部1年　坂本　渉

まず、ヨーロッパの人はたくさんの「バックパス」を使うことに驚きました。たくさん練習をしないとできないプレーだと思いました。それを実践で使うからすごいと思います。自分もそういうプレーができるようにがんばりたいと思います。
2つ目にルーズボールの競り合いについてです。これはゲーム感覚で練習が行えたのでとても楽しくできました。ヤコブさんから教わってとても勉強になりました。
世界には、いろんな練習方法があるんだなあと思いました。

早く次期五輪強化体制を

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

「五輪」「オリンピック」…マスメディアにこの言葉が連日のように躍るようになった。半年後に迫って予選も本番を迎えただけに当然ではあるが、何か一まつの寂しさを感じるのは私ひとりではあるまい。やはり日本のスポーツ界は、オリンピックが幅を効かせているのだなーとつくづく思う。

そうした日本だけに、次の2004年アテネ大会は何としてもキップを手に入れないわけにはいくまい。後ろを振り返っていても仕方がない。早急に“五輪対策プロジェクト”チームをつくって強化に乗り出すことが必要である。

そのバックアップとして強化資金ねん出のために「オリンピック・ハンドボール後援会」をつくって物心両面からサポートできないものだろうか。確かに日本協会では昨年から10万人会と銘打って資金確保につとめているが、これは小中学生からシニアまで幅広い層を対象にしているもの。日本代表チームが思い切り活動するためには、もっともっと援助がなくては強化もままならないのではないだろうか。

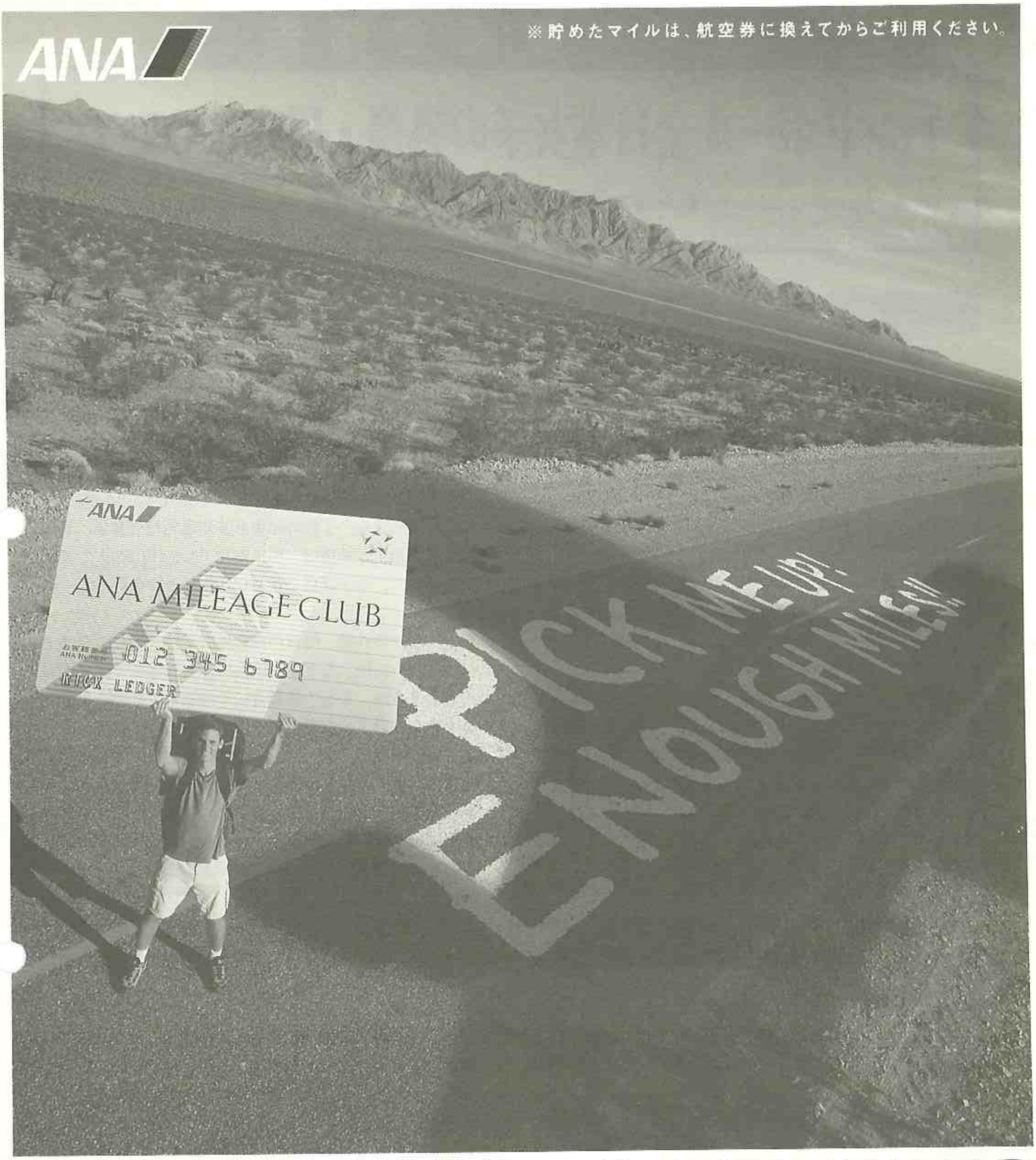
経済界はいまだにきびしい状況から脱していない。例えば日本リーグ加盟のチームに、今までと同様の資金援助を依頼することは困難だし、それですそ野を広げられるかと言えば、なかなか難しいとも言える。それだけに市民の中から沸き上がるような運動が求められるのではないだろうか。日本代表チームを「われわれのチームだ」のイメージを植えつけることが大切だろう。

言い換えれば、その後援会会費は決して高く設定すべきではない。小学生でも小遣いで賄えるくらいの会費がいいだろう。というのは、ひとりひとりに「おらがチーム」の気持ちをもってもらうためである。

また、全国の会員に代表チームの合宿や試合を観戦できるチャンスを公平に与えるために、ブロック別にスケジュールを組んで、ツアーのような構想を打ち出してみればいいのではないか。いくら会員になってほしいと呼びかけても、試合を見たり、選手と接する機会がないと、それは困難である。可能な限り地方でも合宿の場を増やし、また、これまで足を踏み入れたことのない地域に出向くことも、新たなハンドボールファン開拓に結びつくことになるはずだ。

これはひとつの思いついたプランにすぎないが、何かのアクションを起こさなくては、何事も始まらない。しっかりした後ろ楯があってこそ、日本代表は思い切った活動ができるし、それによって当然ながら結果もついてくると思う。

オリンピックは日本国民にとって、実に世界ナンバーワンともいえるスポーツの祭典である。だからこそ、オリンピックに出場することが、ハンドボールに人々の目を向けさせる格好の舞台なのだ。2004年はあっと言う間にやってくる。すぐにも強化のバックアップ体制をつくりたいものである。



The MILEAGE of MILEAGES

ネットワークがひろがって、マイルがさらに貯めやすく、使いやすくなりました。

今、全日空の空が大きく広がろうとしています。充実した国内線はもちろん、国際的な航空会社ネットワーク「スターアライアンス」への加盟により、国際線もさらに拡大。マイレージも、ぐっとワイドに貯まります。選ぶなら、やっぱり「ANAマイレージクラブ」。貯めやすさが断然ちがいます。

全日空(ANA) エアーニッポン(ANK)

＊スターアライアンス加盟の提携エアライン

エアカナダ ニュージーランド航空 アンセット オーストラリア航空 ルフトハンザ ドイツ航空 スカンジナビア航空 タイ国際航空 ユナイテッド航空 ヴァリグ ブラジル航空

＊スターアライアンス以外の提携エアライン

オーストリア航空 ブリティッシュ ミッドランド航空 マレーシア航空 シンガポール航空 スイス航空

ANAマイレージクラブ

10月31日 全日空は、スターアライアンスに加盟。世界112ヶ国以上、760以上の都市をネットワークで結びます。

医科学委員会報告

ハンドボール全日本女子の外傷・障害について

熊本赤十字病院　佐久間　克彦

はじめに

ハンドボールは全身を使う激しいコンタクトスポーツであり、外傷・障害の発生も多い。そこでわれわれが担当した、ハンドボール全日本女子選手の過去３年間のメディカルチェックをまとめ、外傷・障害の現況とその予防と対策について述べる。

対象および方法

対象は、1997〜1999年の３年間に診察したハンドボール全日本女子選手35名のべ107名である。選手35名の内訳は、年齢20〜27（平均23.0）歳、身長155〜177（平均166.2）cm、体重48〜70（平均61.9）kgでポジション別ではコートプレーヤー（ＣＰ）31名、ゴールキーパー（ＧＫ）４名であった。メディカルチェックでは、整形外科的現疾患を外傷と障害に分け、重症度を５段階で評価した(**表１**)。各年で同じ疾患名は何回でてきても１つに数えた。重症度が異なる場合はもっとも重いものを選んだ。

結　果

メディカルチェックの結果は、外傷数88例、障害数76例で合計164例であった。選手１人あたり平均1.53例の外傷・障害を有していた。外傷・障害のなかった選手はのべ107名中７名にすぎなかった（**表３**）。重傷度では、Ｂ－１が127例、Ｂ－２が32例、Ｃ－１が５例であり、Ｃ－２は１例もなかった。Ｃ－１以上の重傷は５／164（3.0％）と少なかった（**表４**）。

外傷の種類では、足関節外側靱帯損傷を含む足関節捻挫が最も多く、次いで手指の外傷、膝靱帯損傷、半月板損傷が多かった。障害は、投球障害肩による肩関節痛（腱板損傷を含む）および動揺型を含めた肩関節障害が最も多く、次いで腰痛症、腰椎分離症等の腰痛疾患、足部痛をはじめ下肢の障害を多く認めた（**表２**）。

考　察

そこで今回の女子の結果を、加藤らが報告したハンドボール全日本男子の結果1)と比較してみた(**表３**)。まず、選手全体に占める有症状者の割合は男子89.1％、女子93.5％と女子が多かった。しかし、有症状者１人あたりの傷害部位数は男子選手１人あたり傷害部位は1.87例に対し、女子は1.53例と男子に多かった。

外傷の種類では、男子と同様に足関節捻挫が一番多かったが、発生率は男子が23.6％（13／55）に対して、女子は14.6％（24／164）であった。次いで手指の外傷が多かった。しかし、肘靱帯損傷は男子に比べ多く認めた。障害では、男子より圧倒的に肩関節痛を多く認めた。次いで男子と同様に腰痛疾患、下肢の障害を多く認めた（**表２、５**）。またＣ－１以上の重傷は、男子が13／103（12.6％）であったのに対して、女子は15／164（3.0％）と少なかった（**表６**）。

以上、女子の外傷・障害の発生傾向がつかめた。この中には、「挫傷・打撲」など不可抗力による受傷で予防が困難な疾患もあるが、毎日の練習方法や節制により予防可能な疾患もある。以下の疾患を重点的に述べる。

①足関節捻挫：ハンドボールは競技特性上、急なストップ動作と急な方向転換を繰り返すため、足関節捻挫が多い。受傷機転として白石らは、ハンドボール全日本選手17名を含む一流実業団女子選手30名を調査報告している[6]。内訳は、人や床との接触（ジャンプの着地の際に人の足の上に乗って）44％（11／25）、ジャンプの着地の際32％（８／25）、走ったりストップをかけたり、ターンをしたりした際24％（６／25）であった。

治療としては、河野が述べているごとく急性期にはＲＩＣＥが重要である[2]。その後は、後遺症を残さないためにも医師による正確な靱帯損傷の有無の診断と治療をすべきである。実際、第13回女子ハンドボール世界選手権に参加した17名のうち足関節捻挫の既往を、47.1％（16／34）に認めた[5]。その中で25％（４足）に靱帯修復術、人工靱帯による再建術の観血的治療が施されていた。また捻挫既往群に下肢のアラインメントの不整を少なからず認めた。下肢のアラインメントの異常は、ジャンパー膝、腸脛靱帯摩擦症候群、シンスプリント、アキレス腱炎、扁平足障害、足底筋膜炎、足根管症候群を惹起する事が知られている[4]。事実、足関節靱帯損傷の後遺症として足関節不安定症に移行し、いろいろな下肢の障害を惹起しその治療に苦労している選手がいる。

予防としてストレッチングが大事である。なぜなら、足関節捻挫の発生率は男子が23.6％（13／55）に対して、

女子は14.6％（24／164）であった。一般的に女子は男子に比べて立位体前屈が大きい。加藤らは、立位体前屈が大きいほど外傷・障害の例数が少なく、足関節捻挫の発生率は低いと述べており[1]、今回の結果もこの事に合致するものと考えられる。すなわち、予防の一つとして、日頃のストレッチングが重要であると思われる。第13回女子ハンドボール世界選手権に参加した17名を調査したストレッチングの伸張時間の結果は、捻挫既往群は平均16秒行っているのに対して、捻挫なしの群は平均10秒であった[5]。傷害は、予防を行うことが大事であり、捻挫なしの群も丁寧なストレッチングを行うことの必要性が強調される。

また、予防の外的要因として河野が述べているごとく、ハイカットシューズが勧められる[2]。しかし、全日本選手で使用している選手は少なく、捻挫既往群での再発予防策として、テーピングのみ施行31.2％、装具のみ使用12.5％、テーピングと装具の両方を併用12.5％であった[5]。

②肩関節痛：女子に肩関節痛が多い原因として、筋力不足が考えられる。豊島らは投げ出されるボール速度はそのほぼ50％の速度が腕以外の身体の働きかけによって生み出されるものであると述べている[9]。また、田中らは上半身の筋力と遠投との間に正の相関があることを報告し、すなわちボールスピードをあげるためにも背筋力の向上を目指すトレーニングが必要と述べている[9]。また、スポーツ医科学委員会は女子の背筋力指数（背筋力／体重）2.0以上を提唱している[9]。しかしながら、毎年行われている体力測定の結果【全日本女子の背筋力指数(平均値)】は、1996年度1.67、1997年度1.82、1998年度1.98と目標値を下回っていた。

その他、肩周囲のとくに内・外旋筋力のトレーニングが不可欠である事は述べるまでもない。

③手指の外傷：往々にして突き指あるいは捻挫として、一括して軽く扱われる傾向にある。手指の外傷について、

表1　医学的評価

分　類	管　理	スポーツ
A　（正常）	な　し	継 続
B-1（観察）	自　己	継 続
B-2（注意）	指 導 者	継 続
C-1（精査）	医　師	継 続（制限）
C-2（治療）	医　師	中 止

A　：正常；全く問題なし。
B-1：観察；自己管理しながらスポーツを続けて良い。
B-2：注意；指導者の管理下で注意しながらスポーツを続けて良い。
C-1：精査；医師による精密検査が必要であり、スポーツは続けて良いが練習量や練習方法に制限が必要なこともある。
C-2：治療；医師による治療が必要であり、スポーツは一時中止する。

表2　全日本女子のメディカルチェック（N＝107）

外　傷		障　害	
足関節捻挫	26例	肩関節痛	15例
手指の外傷	16	腰痛疾患	10
膝靱帯損傷	9	足部痛	8
膝半月板損傷	9	ジャンパー膝	7
打撲	9	アキレス腱炎	7
肉離れ	7	足底腱膜炎	7
肘靱帯損傷	6	膝内障	6
手関節の外傷	2	足関節不安症	6
頸椎捻挫	2	動揺肩	4
その他	2	その他	6

表3　全日本男子との比較

	全日本男子	全日本女子
対象	31名　のべ55名	35名　のべ107名
有症状者	49名	100名
傷害部位	103例（1.87部位/人）	164例（1.53部位/人）
外傷/障害	0.52	1.16
重傷度（C-1以上）	13例（12.6％）	5例（3.0％）

表4　重傷度（全日本女子）

外　傷		障　害	
B-1	60	B-1	67
B-2	24	B-2	8
C-1	4	C-1	1
C-2	0	C-2	0

表5　全日本男子のメディカルチェック（N＝55）

外　傷		障　害	
足関節捻挫	13例	腰痛疾患	19例
手指の外傷	7	ジャンパー膝	12
膝靱帯損傷	5	肩関節痛	7
膝半月板損傷	4	動揺肩	5
肉離れ	3	足関節痛	5
その他	3	膝内障	4
		手関節痛	4
		その他	12

表6　重傷度

全日本男子		全日本女子	
B-1	71	B-1	127
B-2	19	B-2	32
C-1	8	C-1	5
C-2	5	C-2	0

水田らは全日本選手17名を含む一流実業団女子選手21名を調査報告している[3]。罹患側は、右および利き手にやや多く、罹患関節は第５指ＰＩＰ関節および母指ＭＰ関節に多かった。また受傷機転として白石らは、ボールをキャッチする際の受傷が67.9（19／28）％、他人の衣服や体に手指がからまった32.1（９／28）％の頻度で認めている[6]。

治療に関しては選手および監督・コーチと医師の間の手指の外傷に対する認識の差が大きい。すなわち受傷後、医療機関を受診したものはほとんどなく、大多数が未治療例であった。その中でスポーツ活動、日常生活で特に支障を訴えたものはなかったが、半分以上に検診上、何らかの異常を認めた。しかし、長期的な予後は不明であり、幾ばくかの懸念が残る[10]。

④腰痛疾患：加藤らが述べるごとく、背筋力が低いと腰痛疾患が多い[1]。慢性期の腰痛の予防としては、日頃より腹筋・背筋のバランスよい筋力訓練を十分に行うことが大事である。スポーツ医科学委員会は女子の背筋力指数（背筋力／体重）の目標値として、2.0以上を提唱している[10]。

⑤膝疾患：靱帯損傷、半月板損傷後等いずれも大腿四頭筋の筋力低下により２次的に膝蓋靱帯炎を起こしている。また、使いすぎも一因である。何れも練習前後の膝伸展機構のストレッチング、および練習後のアイシングが大事である。アイシングに関しては、第13回女子ハンドボール世界選手権に参加した17名の調査結果は、必ず行う11.8（２／17）％、時々痛いときだけ行う70.1（12／17）％、ほとんどしない17.6（３／17）％であった[5]。

また加藤らは、下肢の外傷・障害の予防には、膝屈筋筋力と伸筋筋力のバランス良いトレーニングが下肢傷害の発生を少なくすることを示唆している[1]。

選手個人も、いわゆる〈けが〉をしてからその治療に専念するばかりでなく、常日頃より〈けが〉を予防することへの関心をもち、練習・試合に取り組むことが肝要である。

参考文献

1）加藤　公ら：ハンドボール全日本男子選手の外傷・傷害の予防対策―体力測定とメディカルチェックからの検討、整形外科　50：117―120，1999．

2）河野卓也：スポーツ医学におけるプライマリケア（ハンドボール）、臨床スポーツ医学No.12臨時増刊号：368―372、1995．

3）水田博志ら：一流実業団女子ハンドボール選手における手指の外傷について、臨床スポーツ医学、Vol.５　別冊：373―376、1988．

4）大久保　衛：踵部内外反と障害、関節外科　14：857―865、1995．

5）佐久間克彦ら：全日本女子ハンドボール選手における足関節捻挫について、リハビリテーション医学　35：1016、1988．

6）白石　稔ら：一流実業団女子ハンドボール選手におけるスポーツ傷害、整形外科スポーツ医学会誌　７：283―286、1988．

7）西山逸成ら：No.１　ハンドボール、平成８年度日本体育協会スポーツ医・科学研究会報告、No.II　競技種目別競技向上に関する研究：19―32、1996．

8）西山逸成ら：No.２　ハンドボール、平成９年度日本体育協会スポーツ医・科学研究会報告、No.II　競技種目別競技向上に関する研究：27―401、1997．

9）西山逸成ら：No.23　ハンドボール、平成10年度日本体育協会スポーツ医・科学研究会報告、No.II　競技種目別競技向上に関する研究：269―280、1998．

10）西山逸成ら：競技力向上のためのスポーツ医・科学研究資料集　競技力向上をスポーツ医科学の立場から、ハンドボール競技（ＨＡＮＤ　ＢＡＬＬ）コンディショニング　ハンドブック―体力づくり・メディカルサポート・コンディショニング―（財）日本ハンドボール協会スポーツ医・科学委員会、1996．

2000年度登録について

各都道府県協会におかれましては、所属各チームに、登録について別紙関連事項を参照の上ご説明いただき、2000年５月19日㈮までに、㈶日本ハンドボール協会宛に所定の手続きを完了されるようお願いいたします。

《登録証の種類と発行について》

今年度は登録証を３種類発行します。⑴全ての種別のチーム役員（ただし、学生、生徒、児童のチーム役員は除く）、⑵「一般Ｌ・Ａ」、「学生」、「リージョナル」種別の選手と学生チーム役員、⑶「高専・高校」種別の選手、の３種で色分けします。登録証の配布は、各都道府県協会に各チームより登録用紙が届いた時点で、人数分の該当登録証を各チームにご発送下さい。お手数をお掛けし申し訳ございませんが、主旨ご理解の上ご協力よろしくお願い致します。

2000年度 ㈶日本ハンドボール協会 登録にあたっての注意

1 登録用紙について

登録用紙は６種類、９種別用意されています。

⑴「一般Ｌ・一般Ａ」、「リージョナル」、「大学」、「高専・高校」、「中学生」、「小学生・スポーツ少年団」に区分されていますので、該当する種類の用紙で種別ごとに登録して下さい。中学生、小学生については競技人口把握のために行うものです。なお、ＪＯＣカップなど全国大会に出場するためには、チームおよび個人の登録が必ず必要となります。ご面倒ですが、ご協力よろしくお願いいたします。

⑵種別の異なる登録用紙を使用して、他の種別の登録は出来ませんのでご注意下さい。また、年度内にチームの種別を変更することは出来ません。

⑶登録用紙は選手数が多い場合に裏面にも記載できます。ただし、裏面を使用した場合は、「副」、「写」のコピーは両面コピーをして「正」と同様に１枚の用紙にして下さい。

⑷登録用紙は、日本協会ホームページ（URL http：//www.handball.or.jp/）から、ファイルをダウンロードして使用しても構いません。ただし、「一太郎８」、「Word98」のみしか用意しておりませんので、対応できない場合は各都道府県協会より配布を受けて下さい。

2

登録規定第２条にしたがって、チームおよび個人（チーム役員および選手）は日本協会に登録して下さい。登録を行わなければ日本協会、各都道府県協会、または各連盟が主催、共催する大会にチーム役員（部長、監督、コーチ、トレーナー、ドクター、マネージャー、主務）および選手として参加することは出来ません。また、チーム役員であっても選手として参加する場合は選手の登録もして下さい。

3 種別について

⑴「一般Ｌ」について

日本リーグ加盟チームのことで、全ての大会に参加資格があります。

⑵「一般Ａ」について

日本リーグ以外の全ての大会に参加資格があります。

⑶「リージョナル」について

都道府県内での大会のみ参加資格があります。「リージョナル」種別のチームに登録した選手は、国民体育大会（予選を含む）に参加資格はありません。

⑷大学

全日本学生連盟に加盟し、日本協会に登録したチームおよび個人を指します。これ以外の大学生は、「一般Ａ」または「リージョナル」登録となります。

⑸高専

全国高等専門学校体育協会ハンドボール競技専門部に加盟し、日本協会に登録したチームおよび個人を指します。これ以外の高専学生は、「一般Ａ」または「リージョナル」登録となります。

⑹高校

全国高等学校体育連盟ハンドボール部に加盟し、日本協会に登録したチームおよび個人を指します。これ以外の高校生は、「一般Ａ」または「リージョナル」登録となります。

4 日本協会登録料

種別…一般Ｌ、一般Ａ、リージョナル、大学、高専・高校、中学、小学・少年団

種別ごとに定めた登録料を納めなければならない。

登録の締め切り後の個人（チーム役員及び選手）の追加登録料は、登録時と同額です。

同一学校の男・女両チームのチーム役員を兼任する場合は、登録料を１チーム分のみとする。

同学校の学生（生徒、児童）をチーム役員として登録する場合は、登録料を選手と同じにする。

同大学の学生が選手とチーム役員を兼任する場合は、１名分の登録料(500円）のみでよい。

⑴学校教育機関チームの登録について

前年度登録していた学校教育機関チームの登録締め切り期日は５月末日となっているが、理由書を添付し、その理由が認められた場合、登録を受け付

けることができる。

(2)学校教育機関チームの選手の移籍手続きについて

学校教育機関チーム選手が、転校を理由にチームを移籍する場合、転校が認められた段階でチーム責任者の承認を得たものとする。よって、移籍届けにはチーム責任者の承認を不要とする。

以上2項目について、選手登録規定の改正を行わず運用面で対応する。

5 登録用紙作成数、提出先および期限について

各チームは登録用紙を必ず「正」、「副」、「写」の3部(「副」、「写」は「正」のコピーでよい)作成して、「正」、「副」の2部を所属の都道府県協会の指定する日までに提出して下さい。なお、「写」は控えとしてチームで保管して下さい。裏面を使用した場合は、「副」、「写」のコピーは両面コピーをして「正」と同様に1枚の用紙にして下さい。

6 個人の登録チーム数について

(1)チーム役員は複数チームに登録できます。ただし、登録料はそれぞれにかかります。特例として、同一の学校（大学、高専、高校、中学、小学）において男子・女子両チーム役員を兼任する場合は、登録料を1チーム分のみとします。

(2)選手登録は1人1チームのみとし、複数チームに登録（重複登録）できません。重複登録は登録規定により懲罰の対象となります。ただし、国民体育大会、その他、特別の選抜チームの登録については別に定めます。

7 国体一時登録について

日本協会登録用紙で登録手続きをされたチームが1人以上補強して国民体育大会へ出場しようとする場合は、国体一時登録をする必要があります。ただし、構成メンバーの年齢は、登録用紙の記載いかんに関わらず全て「国民体育大会規定」の適用を受けるものとします。

8 登録証の発行について

(1)全ての種別のチーム役員、および「一般L」、「一般A」、「リージョナル」、「大学」、「高専」、「高校」に登録した選手には、登録証を発行します。有効期間は当該年度末までです。紛失などで再発行する場合は、事務処理費として500円のご負担をいただきます。

(2)登録証は日本協会に登録されたことを示す重要なものです。各種大会で登録証の提示を求めることがありますので、試合の際は必ず登録証を持参して下さい。登録証の保管・所持には十分ご注意ご配慮をお願いします。

9 チームの新規登録について

新設（新規）チームの場合は、登録締め切り以降でもその都度登録を受け付けます。ただし必ず各都道府県協会を経てお送り下さい。新設チームとは前年度に日本協会登録をしていないチームのことを言います。

10 チーム役員および選手の追加登録（新規）について

チーム役員および選手の追加登録はその都度認められます。追加登録は大会申し込み期日までに、各都道府県協会を通じて完了されていなければなりません。所定の届け出用紙に必要事項を記入し所定の追加登録料と共に、各都道府県協会を通じて日本協会へ提出して下さい。日本協会が受理した日をもって有効とします。

11 選手の追加登録（移籍）について

(1)当該年度にチームに個人登録し、そのチームをやめ、他のチームで再び競技をしたい場合は登録を抹消し、追加登録（移籍）をしなければなりません。

(2)追加登録（移籍）の1度目は、当該年度内のいつでもできます。一度追加登録（移籍）をした場合は、当該年度2番目の登録チームに3カ月間在籍しなければなりません。3カ月経過しなければ2度目の追加登録（移籍）はできません。

(3)追加登録（移籍）をする場合は、所定の届け出用紙に必要事項を記入し所定の追加登録料と共に、各都道府県協会を通じて日本協会へ提出して下さい。日本協会が受理した日をもって有効とします。

12 登録抹消について

所属チームをやめる場合は、登録抹消手続きをする必要があります。所定の届け出用紙に必要事項を記入して、各都道府県協会を通じて日本協会へ提出して下さい。日本協会が受理した日をもって有効とします。

13 登録用紙記入の際の注意事項について

登録用紙に記入する際は、下記事項に注意し正確に記入して下さい。なお、

前年度の登録一覧表（ただし全項目は入っていない）を各チームに配布しますので、ご参照下さい。

この説明書はすべての種別に共通に作成してありますので、登録用紙に見当たらない項目の説明もあります。その場合は読み飛ばして下さい。

(1)新規・継続、種別、男女別欄および加入連盟の該当に○印をつけて下さい。

(2)所属都道府県の欄にはチームを登録する都道府県名を記入して下さい。

(3)登録役員数および登録選手数欄には、登録する個人の合計数を記入して下さい。

(4)登録役員数欄の（内兼任　名）および（内学生　名）には、該当する人数を記入して下さい。

(5)チームNo.、チーム名（学校名）は前年度に登録がある場合は同じNo.、名称にして下さい。チーム名を変更する場合は、別途「チーム名変更届（理由書）」（書式任意）を添付して下さい。

(6)代表者欄は、チームを代表される方（校長、部長、監督、指導者など）の氏名をお書き下さい。また、必ず捺印をして下さい。

(7)チーム（学校）所在地を記入して下さい。

(8)「大学」は、“大学承認印”を必ず用紙右上所定欄にうけて下さい。

(9)連絡先欄は、日本協会登録証や各種通信物が確実に届くところを正確に記入して下さい。担当者名、送付先団体名が必要な場合は、必ず記入して下さい。機関誌送付先が連絡先と異なる場合は、機関誌送付先も正確に記入して下さい。もし登録後に転居などで住所を変更される場合は、速やかに日本協会および都道府県協会に連絡をして下さい。

(10)各箇所のフリガナ欄には必ずカタカナで記入して下さい。郵便番号（〒）は必ず新７桁番号を記入して下さい。住所欄への都道府県名記入は不要です。

(11)全ての種別のチーム役員、および「一般Ｌ」、「一般Ａ」、「大学」に登録した選手は特にコンピュータ入力をし、登録No.で個人管理を行います。登録No.は生涯個人No.となります。前年度に発番がない場合、または、今年度、新規に登録するチーム役員および選手は番号欄に（新）と記入して下さい。役職欄は部長、監督、コーチ、トレーナー、ドクター、マネージャー、主務がこれに該当します。ただし、「役職名」はチーム状況把握のために行うもので、この「役職」で登録を規定するものではありません。したがって、それぞれの大会規定に従い役職名を変更することが出来ます。

(12)「大学」、「高専・高校」、「中学生」、「小学生・スポーツ少年団」に登録するチーム役員の内、同一学校の男子・女子両チームのチーム役員を兼任する場合は、役職欄に“監督（兼）”のように役職名の後に“（兼）”と記入して下さい。また、登録料の免除を受ける側の登録用紙の現住所欄に、住所を記入せず、“男子チームで支払い”のように記入して下さい。

(13)「大学」、「高専・高校」、「中学生」、「小学生・スポーツ少年団」に登録するチーム役員の内、同学校の学生、生徒、児童の場合は、番号に○をして下さい。

(14)「大学」に登録する学生チーム役員の内、選手と兼任する場合は、チーム役員欄に記入せず、選手欄の番号に○をし、番号左外欄外に「役職名」を記入して下さい。

(15)選手欄の通し番号はユニフォーム番号とは関係ありません。上から詰めて記入して下さい。

(16)過去に登録した個人が新規に登録をし、新たに登録No.を取得すると重複登録としてリストアップされます。重複登録は登録規定により懲罰の対象となりますので、間違いのないようにご注意下さい。特に、種別が変わる（大学→一般Ａなど）、移籍などは、前年度（過去）の個人No.を確認し記入して下さい。

(17)生年月日は西暦で記入して下さい。昭和の場合は年号に25を足せば西暦下２桁になります。

(18)「契／非」欄はＩＨＦ規定に基づく選手契約の有無についてです。該当を○印で囲んで下さい。

(19)勤務先は出来るだけ詳細に記入して下さい。

例：○×（株）、●▼高校教員、◇◆大学□学部△年

(20)平成11年度くまもと未来国体に出場された方（都道府県大会及びブロック大会を含む）は、「国体出場都道府県名」を記入して下さい。

14 連絡先、機関誌送付先変更について

連絡先、機関誌送付先を変更する場合は、速やかに日本協会および各都道府県協会まで必ずご連絡下さい。なお、機関誌年度は、平成12年７月～13年６月（１月は休刊、年11回発行）で、通常の年度と異なります。３、４月の転勤・転居などの際は特にご注意下さい。

事務取り扱い責任者会議議事録

［日　時］ 平成12年2月27日（日）13：00〜16：30
［場　所］ 青山メトロ会館
［出席者］
関根昌彦（北海道）、横山繁（青森）、今野正志（宮城）、最上大（福島）、長谷川剛（茨城）、岸裕行（栃木）、新井善人（群馬）、山下卓（埼玉）、五味崇恵（千葉）、内藤浩（東京）、細井義彦（神奈川）、新谷幸司（山梨）、竹内佳明（長野）、小林智隆（新潟）、幸塚孝行（富山）、帯金充利（静岡）、矢野哲二（愛知）、奥田隆行（三重）、河田雅幸（岐阜）、能波羊二（滋賀）、小山勉（京都）、源野幸次（大阪）、丸茂康子（兵庫）、中川敏文（奈良）、村上芳美（島根）、笠作幸男（岡山）、西元義昭（広島）、原井進（山口）、馬場文彦（香川）、上野裕司（愛媛）、和佐野健吾（福岡）、荒木雅浩（熊本）、長尾明徳（大分）、末廣芳文（宮崎・高体連）、馬場口和久（鹿児島）、関健二（実連）、兼子真（学連）、中野利一（教職員）
日本協会：市原専務理事、殿水総務本部長、江成競技運営担当理事、村松総務担当理事、喜井国際担当理事・事務総局長、佐分「がんばれハンドボール10万人会」推進本部長、松原参事、笹倉指導委員長、兼子競技運営委員

開会にあたり市原専務理事より挨拶

評議員会の報告、ハンドボール10万人会の紹介があり、また、シドニー五輪予選状況報告で、新しいものが得られたとの報告がなされた。さらに、スポーツコーチサミットシンポジュウムが開催されることについて、次のようにその内容説明があった。

・日本球技スポーツの変遷について、アジアのスポーツ先進国だった日本は、国がバックアップしてきた諸外国に対し、相対的に日本の国際競技力の低下となって現れているとの説明があった。今後の日本のあり方としては、ソフト面（強化システムの確立)、ハード面(ナショナルトレセンの設立)、ヒューマン（指導者養成・社会性を持つ、選手・指導者の地位向上、国際性の養成）の各部門の充実が必要である。
・人と人の繋がりを、物事の善し悪しで判断する関係性を持つ協調性を強調すること。
・地域社会とのつながりを大切にするスポーツクラブづくり。
・対医療費増加を念頭に入れながら国民総スポーツ運動を展開し、生活習慣の中へハンドボールを取り入れていくようにする。

【議　題】

1.「がんばれハンドボール10万人会」について：

殿水常務理事

サポート会員規約について、昨年度よりこの制度がスタートしている旨説明があった。さらに、登録状況について、選手、審判など順調に推移している。関係者以外でサポートしてくれる人々の募集推進をはかる必要がある点が強調された。

サポート会員の募集推進の方法説明：（佐分推進本部長）

・会員はマンツーマンで募集する必要がある。
・申し込み要項の封詰め方式採用したことが説明された。
・各地区の推進委員の方に、趣旨、募集方法を的確に伝えてほしい旨、依頼があった。
・平成11年度の10万人会登録数の報告があった。

現在8万5千人。各推進委員に50〜100名の募集依頼、今年度加入の方に、次年度も加入を依頼するよう働きかけすることが確認された。また、次の点の確認がされた。

(1) 入会の手順、協会と推進委員の活動の流れ
(2) 会員の紹介者（推進委員）と、会員の所属を明確にすること。これは、募集者数の多寡により各都道府県への還元金が変動するので注意する。
(3) 協会での毎月の申し込み処理、バッジや会員証、パスカードの発行など、一連の流れのサイクル確立を推進委員の方と進めていく。事務方は、その連携を支援していく。

質問：入会申し込みは、受取人払いのはがきを封詰めするのか。
答：推進委員の方に封詰めしたものを50セット届ける予定。
質問：広告用のパンフレットはないのだろうか。
答：パンフレットも配布していく予定。パンフレット経由で申し込みがきた場合は、協会から、当人に申し込み直接はがきを再送するようにする。
質問：ファミリー会員の扱いはどのようになっているか。
答：パスカードはいかない。グランド会員のみにパスカードは発行される。会員証とは異なるので注意が必要。
質問：入会した月から1年間有効の確認。
答：年度途中の入会と更新は、協会で会員個人とやりとりしていく。各都道府県では、募集を推進して欲し

い。

質問：ペアーチケットなどの内容と有効性について。

答：年一回送付。

・会員募集要項の説明があり、入会に際しての申し込みの分かりにくかった点の変更についての説明、手続きの方法の明確化があった。

・還元金の処理について説明があった。

配布した封筒の中にある用紙に必要事項を記入の上、協会にFAXなどで返送する。また、推進委員には、入会者名簿一覧を送付する予定である。

依頼：各都道府県協会に、2月末現在の還元金の額を連絡して欲しい（広島）。

2. 平成12年度登録関連について：

江成競技担当理事

－登録に関する運用について－

・学校教育関係機関で前年度登録チームは、原則として5月末締め切りとする。登録の延期は、理由書をつけた場合は認められることもあることの確認がされた。

・転校について次の点が確認された。

「転校が認められた時点で、チーム責任者の承認が得られたものとする。移籍届けは元チームの責任者の承認は不要。」

－登録関係の書類－

・2月20日発送済み。発送内容は5種類、大学の種別のみ、各地区学連に送付した。

・とりまとめ方についての説明があった。

(1) 登録証について。

黄色：チーム役員用（2000円を払う役員が使う）
チームのマネージャーなどとの混用注意

青色：大学、リージョナル以上

緑色：高校、高専

(2) 発送数の算定は、全国の登録数一覧を参考にした。

(3) 登録用紙のファイルは協会HPに、圧縮、PDFの各ファイル形式で掲載。

(4) 以下の訂正がなされた。大学の登録用紙は、各都道府県協会に提出する（配布はブロック学生連盟単位で行っている）。

・所属チームに登録の趣旨、方法がいき渡るように連絡を徹底して欲しい。

・各都道府県協会への登録料と協会への登録料についての説明が混同しないように注意して欲しい。

・学生の選手とチーム役員登録は、どちらか一方の登録料支払いでよい。

・7月末に、登録状況を報告するようにしたいが、システムの不具合・不手際で完全実施はできていない。

・登録証の番号（大学以上）を一覧表で連絡するので、登録証を配布する際に記入したり、当事者に記入させるなどして登録証に記載する。

・国体登録などは、時期を遅らせて発送する予定。

・追加登録については、例年通り行う。

質問：5月以降の登録受付について。直接日本協会か。

答：都道府県協会で受けてから、日本協会に登録する。
理由書の内容は、「部員数の未確保による」ことに限定したい。（学校の合同チームの参加、登録については、高体連で検討中。）

質問：登録証のナンバリング（登録番号）について。

答：3月上旬にナンバー一覧表を送付する。

意見：大会参加申し込み書に、登録ナンバーを記入してはどうか。

答：今年度までに登録してある者については、登録番号が発行されているので記入可能である。
全国大会は、参加資格を登録番号をもとにチェックしていきたい。

質問：大学だけがなぜ、ブロック学連からなのか。

答：学生の大会はブロック単位での開催である。学生の登録作業の負担軽減が主目的である。

質問：学連の登録の流れについて。

答：チーム単位での煩雑だった登録業務を簡素化を図ったために、変更になった。

要望：登録証に、都道府県番号を付加して欲しい。

質問：中学・高校はチーム登録がよいのではないか。

答：登録されていない選手は公式大会に参加できない。
選手個人の追加登録を適宜実施し、大会に参加するようにする。

意見：中学生も個人登録して、登録証の番号を確保しては

どうか。

要望：中体連、高体連に登録の徹底を図って欲しい。

要望：学連への登録方法の徹底、特に都道府県協会に登録用紙を提出するように。

3. C級コーチ養成講習会について：江成、笹倉

◎コーチレフェリーシンポジュウムの開催について次のように報告があった。

3月10〜12日、98名の参加で、実施予定である。

◎C級コーチ養成講習会の開催について、次のように報告があった。

学校関係指導者を対象に、7月28日〜8月2日、名古屋市（予定）で、40名程度の参加を募って実施予定である。各県での推薦が依頼された。

◎C級スポーツ指導員養成講習会の申し込み状況について次のように報告があった。

東京、青森、愛媛、大阪の4都府県で実施予定である。

◎各県代表の指導担当委員の選出依頼（特に北信越、北海道に対して）があった。

◎富山国体から、監督は公的資格所有者が望ましいとの条文が入った。

質問：C級スポーツ指導員養成講習会は、実施にあたり、最低20人の参加が必須との条項がある。

答：20名の参加がなくても、スタートしたほうがよい。

質問：C級スポーツ指導員養成講習会実施アンケートの提出について。

答：県の体協と日本ハンドボール協会から調査がある。日本体育協会から地方協会への予算措置があるためであり、実施内容は中央団体が指導することになっている。

4. マスターズ大会、ビーチハンドボール大会について

◎各種目のマスターズ全国大会開催へ、協会としての参加を表明した旨、報告があった。

◎2000年7月29、30日、全日本ビーチハンドボール大会を本荘市で開催予定であるとの報告があった。これは、2001年の秋田ワールドゲームズのリハーサル大会としての位置づけであり、日本代表選抜を行う。各ブロックに代表チーム選出依頼をしていることの連絡があった。

◎ビーチハンドボールの登録について

発展段階ではあるが、チームの登録は必ず行う。大会参加申込金の中に、チーム登録金を含めていく方針であり、中学・高校生と同様に個人登録は行う。チーム登録は、大会参加時に行うことにする。役員登録は、別個に行うことにする。

◎ビーチハンドボールの世界的位置づけについて次のように説明があった。

スペイン、イタリアから始まり今後盛んになるだろう。ワールドゲームズで公開競技として、2001年は実施される。今後も支援をしていく必要がある。

5. その他

◎公式記録用紙のPC入力・印字システムについて次のように説明があった。

協会として、シドニー五輪アジア予選、全日本総合（女子）で運用した。これを、FD5枚で1万2千円で配布する。各都道府県に購入依頼をした。3月末までに申し込み書配布予定であることが伝えられた。

◎日本協会のHPは、他協会に比べて非常に充実している。

◎機関誌送付先住所の記載徹底を依頼した。登録料は一度、最高額を納入する旨、確認された。その他、記入上の注意があった。

◎国内大会の日程については別頁の通りである旨、伝達された。

◎事務局長より次のような連絡があった。

事務局からの連絡が滞りがちであり、連絡、返答を必ず協会に入れるよう依頼した。

質問：ボールの件。

答：競技検定委員会でボールの規格を厳密にしていく。ボール圧は、国体0.32〜0.34。高体連は松ヤニなどの使用可能状況に応じて、0.28〜0.30で運用することもある。

◎殿水常務理事より挨拶があった。

地方協会での厳格な予算運用、10万人会のいっそうの募集協力を依頼した。

がんばれハンドボール
10万人会
サポート会員名簿

【北海道】山辺文彰、駒林昭三、松　喜美雄、友師恭子、小島収治、小林　礼、笹川賢俊、渡辺晶子
【青森】鎌田孫秀
【岩手】中舘　豊、多田和生、上町祐隆
【宮城】山路康男、菅間　進、千田哲史
【秋田】山本　勲、高桑繁幸、高橋　肇、古関和子、佐藤ユリ、松岡則夫、佐藤直子、熊谷美香、古関兵衛、阿部　憲、相馬優香理、鎌田由香、後藤達美、冨樫綾美、佐藤由紀恵、田口真央、小原麗子、千葉未貴、安達翔子、草彅恵、木曽重芳
【福島】今野雅益
【茨城】田中汀子、小野俊弘、北村善夫、住尾勉、佐竹理容室
【栃木】八木　豊、伊藤宏幸、石田正彦、岸裕幸、伊藤明日香、伊藤未咲、伊藤良子
【群馬】伊崎克巳、宇佐美幸彦、前田達也、高橋萬知子
【埼玉】岡村昭二、田中　孝、伊藤　良、高田誠、川端マサフミ、西濱弘幸、松山幸雄
【千葉】三井　信、植村　彰、石橋　茂、石橋美保、木内久美子、木内兵太郎、坂本静男、小出留里、津川　昭、東根明人、稲生道子、内野洋子、奥村寛太、西村孝雄、稲生久美子
【東京】長田　敦、河内鋭雄、佐藤佳子、市原茂子、緑川正博、早坂美由樹、南木雅弘、田島悦子、原田弥生、山中重宣、杉山　茂、川本孝夫、杉山広樹、兼子　真、佐藤俊男、佐藤映子、後藤　登、佐藤和孝、吉田久士、西岡雅樹、今井敏之、増渕潤一、美之口竜生、松本隆平、川上憲一、江成純子、山口克美、後藤明美、石川皓一郎、石川浩和、石川泰子、多田章子、武田恭子、石川ユリ、石川亜季、三宅章二、山口昭子、山口克美、山口真理
【神奈川】植村　繁、臼井鉄久、渡辺亜由美、杉山義祥、吉澤和美、近久紀人、堀内英彦、五島孝彦、内山由香、中野俊裕、真田佐恵美、小澤摩里子
【山梨】千野恒夫、小池道春、藤崎　誠、平岡秀雄、天野盛夫、渡辺英彰、勝俣裕二、後藤滋、萱沼妙子、斉藤節子、横森　巧、滝口修
【長野】柳沢民弥、木内雄一、小口政則
【富山】光安美津夫、藤井清勝
【石川】酒谷信彦、古橋幹夫、星野藤盛、井川邦彦、鳥越浩二
【福井】高野郁代、田中昭一郎、志々場博子、田中秀明
【静岡】帯金充利、清水保雄、山田久美子
【愛知】太田耕治、稲住晋二、早川弘三、村木啓作、角　紘昭、浅野克彦、蒲生晴明、佐藤由佳、増田喜久、西村亮治、安藤　孝　山崎正利、長谷川富佐子、奥井正浩、鈴木規子、水谷美智子
【三重】大石博義、栗本士郎、小林良典、木戸地浩三、岩瀬由恵、喜井翔一、喜井久美子、喜井たか子、梅基幸一
【岐阜】斎藤和義、杉山二女代
【滋賀】岸下清登、出口敏之、原　吉輝、小林重幸
【京都】藤本　昇、吉田博二、林　佳弘、清水正廣、阪田圭江、小山　勉、審　愛玲、中村孝司
【大阪】寺内啓之、森本正毅、塩川正十郎、四方洋子、宍倉保雄、志賀良弘、古庄　誠、家永昌樹、奥野隆司、山崎　武、山下知子、緒方嗣雄、㈱光エージェンシー、神田清、中川晴美、幸田知子、幸田富久子、幸田敦子、㈱イデイ、陰山　登、川口順弘、繁田剛士、長川由美子、南　晶子、中村繁一、㈱ルーニーコーポレーション、岡村和美、神田真純、神田真知子、吉澤力男
【兵庫】松本直人、狩野幸介、殿水幸雄、山原一晃、狩野孝子、狩野裕子、狩野智美、狩野祥信、光島磯雄
【奈良】佐々木英明、森　覚、中川敏文、木森啓至
【和歌山】山田　進、田中秀和
【岡山】片山　透、村木理英、藤井俊朗、厚沢フサ子、大熨嘉彦、厚沢嘉身
【島根】河野裕光
【広島】佐藤　実、大井隆史、市原竜太、瀧浦祐子、草ノ井文子、山下明子、玉村健次、高田浩志、竹林　勝、田村金子、平賀達也、西山逸成、出原　理、能木　進、明石雄次、大橋李彦、窪田亜希子、松谷由美子、山口由香、小沢布美子、中山真由美、河原ゆう子、田中保奈美、藤本文子、加川浩子、森口隆史、佐々木徹行、藤本健太郎、平田順二、新島信太郎、穴沢幸夫、山本　剛、野田秀一郎、大内田宏生、小吉川清人、延近眞也、村上　忠、白井祥敬、松井　攻、鈴木あゆみ、山坂　清、酒井幸雄、松本孝次、松浦五月、池田邦昭、樋野村　勉、中川英二、下原康男、升田久恵、荒川正人、木村　勉、河野芳弘、大足伊世夫、高田順三、北村厚子、角　慎一郎、安井典子、西野　明、三好健一、白井謙次、藤田洋子、甲南包装工業株式会社、関口一弘、鳥羽信好、宮沢裕樹、斉藤達之、萩原宏人、嶋田俊一、大貫芳美、長尾久恵、松尾裕彰、松本義樹、井手長翁、新宮良介、新宮蓉子、新宮昴史、新宮資央、服部秀人、国広正行、井上啓次郎、山本伸二、小笠原　靖、本多実秋、久保光子、丸川敏枝、浜本美紀、山本雅幸、長和俊史、小寺幸広、尾崎　伸、西川恵美子、戸田政弘、岡田　賢、尾上匡信、上垣内　光、木村　滋、河野　二、郷田典秀、高本統夫、田中壮二、西元成憲、綿平協生、広住　誠、村瀬正機、森井　勲、矢野エイ子、両徳良樹、今田　博、菊岡正敏、倉澤　孝、黒川正明、河野洋右、小谷孝二、佐々木和登、立花ひろし、橋本令子、花高実喜、馬場雄大、坊　光央、向井　明、向井信行、山本　功、加藤将巳、塩見　博、東敏行、東　睦美、深見逸子、槇岡達也、槇岡照子、行竹奈保子、入本富男、岡村かおり、加藤真紀子、河内瑠香、小藤佳美、財津佳与、重田理絵、谷　茂、田丸政治、中本和明、長谷川耕二、林　竜二、幡司美緒、村岡麻奈未、湧山絵美、紫苑、山崎咲弥、伊藤　顕、上田謙二、空　健司、森岡　勝、山崎正則、郷路晴彦、篠原義昭、岩本愛生、岩本康博、岩本幸子、佐藤琢也、藤野澄江、渡辺孝行、渡辺イソノ、胡浜茂夫、下田修三、松田育子、木坂直樹、迫広清士、樫本隆弘、築地至大、立川正史、竹広真理子、富永秀雄、山本康則、沖田　稔、清永宏隆、光実和之、安達正俊、瀧川都子、川本義昭、村上俊雄、村上　大、柏原信行、高杉国男、高杉涼子、高杉直樹、高杉達也、高杉巴恵、今田浩司、上松京子、小谷洋士、末田清則、西田文子、迫　茂、中岡茂樹、峠　敏、青戸克好、加茂勝巳、湯田千鶴、渡辺　孝、林　昌彦、大城恵子、箕岡省三、平田陽子、平田奉之、仁方越智美、河本幸男、河本幸枝、復光静江、広瀬喜代香、広瀬けさみ、広瀬　勇、杉本真樹、杉本富美子、杉本光則、小島優子、小島規子、小島恒雄、橋詰節子、住岡孝吉、長木修平、長木ますみ、長木信幸、小林由香、升賀博昭、須藤　宏、元吉伸和、大本和志、奥原伸雄、棟近憲昭、大澤有一、山本保馬、矢木久則、金山昭裕、住田貴志、萩野俊夫、水野康樹、篠原　晃、山崎　剛、山本清司、山田茂雄、安本俊彦、富永高行、河本有二、宮下和高、村主慎一、林田良明、高旗直樹、元田一好、藤田　拡、藤浪さつき
【山口】森田俊介、廣政清純、織田正則、西川精二
【香川】小早川道孝、枯木昌則、岡川昭博、柴崎好正、西川和正、玉本文雄、近江秀敏、地濱　強、横田百合子
【徳島】竹内晃久
【愛媛】越智　武、越智紀子
【福岡】桐明　正、松本浩志、下田昭弘、下田真理子
【佐賀】久保田秀光、後田ツヅキ
【長崎】石井道義、新井善文、杉原ゆかり、青木忠久、藤山聖子
【熊本】村上好江、佐久間克彦、松本恵子
【大分】幸　敏明、小野真知子、種崎建夫、吉良利夫、梶原　崇、西江　隆、児玉寿敬、三崎信治、積田芳規、利光恵美子、小田晴美、小河内康生、石甲斐英三、牧　康司
【鹿児島】野口智春、井料たか子、池ノ上孝司、
【沖縄】新垣安伴、多和田真尚、大城泰章

平成11年度から
新会員登録制度
スタート！

がんばれ ハンドボール 10万人会



●HANDBALL　FAMILY

	年会費	主な特典
グランド会員	10.000円	日本協会機関誌（年11回） 日本協会主催大会無料パス 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引
ファミリー会員	3.000円	日本協会主催大会無料 ペア券1枚 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引

■登録増によるメリット

- メジャースポーツとして認知
- 登録金の増収

↓

- スポンサーがつく
- 全員参加意識の高揚

↓

財源確保

↓

各種事業への活用と充実
- ○小・中学校の普及
- ○ビーチ・マスターズ・車いすハンドの支援
- ○ミニハンドボール競技の導入
- ○ジュニア層の重点強化
- ○各大会の補助金アップ
- ○国際大会の招致
- ○一貫指導体制の確立

団結しよう！
ハンドボール・ファミリー

少子化の影響などにより登録人口の減少傾向が各スポーツ界の大きな悩みになっています。昨今の経済不況も深刻さを増すばかりです。

今こそハンドボール・ファミリーが団結する時です。皆さんが自分のチームを愛するように、日本ハンドボールを愛して下さい。登録人口が増え、財源が大きくなれば、小・中学校の普及はもとより、ビーチ・マスターズ・車椅子ハンドボールの支援、ミニハンドボールの普及、また強化の根幹となるジュニア層の重点強化、そして各大会の補助金アップや国際大会の招致などにつながります。

皆さん1人ひとりが主役です。選手、審判、役員、OB、OGなどに限らず新たなサポーターも募り、全員参加のもとでメジャー化を図り、ハンドボール文化を構築しましょう。

グランド会員、ファミリー会員への入会方法

所定の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい（郵送の場合は切手は必要ありません）。後日、日本ハンドボール協会から会員バッジなどをお送りします。年会費はご指定を受けた金融機関の口座から引き落としさせていただきます（ほとんどすべての金融機関でご利用できます）。

なお、申し込み用紙は、日本協会、各都道府県協会、または各全国連盟事務局にご請求下さい。

財団法人　日本ハンドボール協会

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育館内

TEL.03-3481-2361　FAX.03-3481-2367

http://www.handball.or.jp/

協会だより

2月度常務理事会

日　時　2月5日（土）10:00〜12:00
場　所　日本体育協会401・402会議室
出席者　市原専務理事、常務理事8名、理事1名、事務局2名

【議　　題】

1.「がんばれ10万人会」について

次年度会員募集に向け、推進本部より募集要項としてまとめたマニュアルを作成した報告があった。

規約の改定について確認。

「がんばれハンドボール10万人会」会員と呼ばれていた種別をサポート会員と称し、全ての種別の総合計で登録人口10万人とすることを確認。

2. 日本マスターズについて

日体協理事会において日本マスターズ開催要項が承認され、実施希望競技団体へ実施に向け調査依頼があった。

初回は2001年大会で、10から12競技で実施予定。ハンドボール競技が選択されるよう積極的に推進することを承認。

3. ナショナルトレーニングシステム（NTS）について

ナショナルチーム選手の若年層から優秀な選手を育成するアンダーチームの強化改善の導入を新設し、12年度より全国9ブロック47都道府県協会と協力して推進していくことを承認。

実施日程は、各ブロックと協議のうえ7月から9月とし、実施スケジュールとスタッフの役割分担（案）の報告があった。

4. 平成12年度登録について

選手登録に関して、学校教育機関のチームは、登録期日までに登録できなかった場合、理由書を添えて登録締め切り以降でも登録できる。

移籍届用紙に、学校教育機関転校による移籍は、前チーム責任者の承認印を不要とする。

5. その他

全日本総合選手権大会開催権料について、男女共同開催、男女分離開催の場合の金額を確認した。

本年度女子大会について、女子世界選手権参加のため、急遽依頼した経緯を踏まえ、特別補助金を支払うことを承認。

西日本小学生ハンドボール交流大会に、岡山県協会より役員派遣依頼があり、派遣を承認した。

【報告・了承事項】

第9回男子、第7回女子アジア選手権大会兼シドニーオリンピックアジア予選について

第51回全日本総合男子の部結果及び女子の部組み合わせについて

平成11年度
第3回全国理事会

日　時　2月5日（土）13:00〜16:30
場　所　日本体育協会402会議室
出席者　中澤副会長、市原専務理事、常務理事8名、理事6名、参事9名、監事2名

【議　　題】

1. 平成11年度2次補正について

平成11年度第2次補正予算（案）についての説明がなされた。収入の部は、特別会計から繰入が「がんばれ10万人会」の未達成による減額。支出の部は、予備費からオリンピック壮行会の補助分の減額。委託金事業が増額となった分の増額。

以上3件の補正について承認された。

2. 平成12年度事業計画（案）および予算（案）について

各委員会から事業の基本方針および重点方針が示された。

「平成12年度事業計画」参照。

平成12年度の事業計画（案）が承認された。

引き続き、平成12年度の予算（案）が審議された。

収入の部について、特別登録金はリーグチーム数の減少とそれに伴う登録料の減額、審判の登録増が期待できること、寄付金については増加の見込みなしなどで、前年度比減。支出の部

について、人件費の削減、立会人制度の徹底をはかる講習会を実施するために競技運営費の増額、規程集等の作成をはかるため財務・総務委員会事業の増額等、大きな変動点を説明。平成12年度の予算案、会議日程が承認された。

3. がんばれハンドボール10万人会について

マニュアルが完成し、次のように説明があった。

・平成12年度は、月毎に、会員の受付処理、サービスを行う。

・「がんばれハンドボール10万人会」を日本協会に登録したすべての人とする。

・入金方法の説明（パンフレット使用）があった。

4. 日本スポーツマスターズについて

2001年から開催、各スポーツ団体に参加確認依頼が日本体育協会よりあった。

・35歳以上のスポーツマンを対象とする。

・実施競技10程度である。

・大会経費は日本体育協会が負担（国体に準じる）する。ただし、旅費、宿泊費は個人負担（場合によっては、都道府県の協会などが負担）する。

・男女開催である。

・各競技団体単位でやっていたマスターズを一堂に会して実施することを趣旨とする。

ハンドボール協会が参加することについては既決事項。一般Aの登録をして参加する。

以上承認された。

5. NTS（ナショナルトレーニングシステム）について

7月から9ブロックでの完全実施を目指す旨、提案があり、資料に基づき説明があった。

NTS運営委員会を新設し、委員長蒲生氏、副委員長東根氏とする。一貫指導体制完成を目指す。経費は、日本リーグから一部支援するが、将来は全額支援できるようにする。

以上承認された。

6. 平成12年度登録について

大学（学校教育機関）の締め切り延長について、理由書をつけた場合、5月末締めを延長可能。転校生徒の移籍については、責任者の文書による承認を得た後、可能とする。学校教育関係チームにおける個人の登録料徴収は、年1度のみ。ベンチ役員としての登録料は別途徴収しないことの確認。

以上承認された。

【報告・了承事項】

1. 熊本アジア選手権、シドニー五輪予選について

女子では、朝鮮民主主義人民共和国の変化、男子では、日本の若手の成長が指摘された。

2. 全日本総合について

男子の結果報告、女子の開催要項の説明があった。

3. 各本部会、委員会より報告

・競技本部からは、東アジア大会より委託契約を結ぶ旨、報告があった。

・日本リーグプレーオフ日程の確認。国外審判員の招聘、講習会実施。

4. 各ブロック、連盟より

各種の報告があった。

NTS2000START

ナショナルトレーニングシステム（NTS）

日本ハンドボール協会では、ジュニアから代表チームまでの一貫した指導システムを2000年4月から実施します。

将来の子供たちのために、日本ハンドボール界の活性化のために各連盟・各ブロック・県・市町村のハンドボール協会のご支援をいただきまして、より良いものにしていこうと考えております。

皆様方の絶大なるご支援・ご理解をお願いいたします。

詳細につきましては、次号に掲載いたします。

NTS運営委員長　蒲生晴明

第4回関東ビーチハンドボールフェスティバルさざ波大会 兼第2回全日本ビーチハンドボール選手権大会関東予選

開催要項

1．主　　催　(財)日本ハンドボール協会ビーチハンドボール委員会・千葉県ハンドボール協会・富浦町

2．主　　管　千葉県ハンドボール協会ビーチハンドボール委員会

3．後　　援　(財)千葉県体育協会・扇屋ジャスコ(株)・(株)スポーツイベント・千葉テレビ・千葉日報社・房日新聞社・富浦町教育委員会・富浦町観光協会・市川スポーツ・(有)アイカ

4．期　　日　平成12年５月20日・21日

5．会　　場　千葉県安房郡富浦町原岡海岸

6．参加資格　高校生以上で、平成12年度(財)スポーツ安全協会傷害保険または任意保険に加入していること。

7．種　　別　男子の部（男女混合を含む）　女子の部

8．競技方法　参加チーム数によって決定する。

9．申し込み　参加料納入後、下記書類を同封し、期日厳守で申し込むこと。

［締　切　日］平成12年４月28日必着

［参加料振込先］

ちば興業銀行　千城台支店　普通預金７２９７９５１

ビーチハンドボール運営委員会　委員長　本間誠章

［参加申し込み先］

〒299―2403　安房郡富浦町原岡980　(有)アイカ内

ビーチハンドボール委員会事務局　本間誠章宛

ＴＥＬ：０４７０―３３―２２４６

ＦＡＸ：０４７０―３３―４６０５

［同　封　書　類］　大会申し込み用紙、大会参加料（振り込みの確認できるものを同封すること)、日本協会ビーチハンドボール登録用紙、宿泊申し込み

10．参 加 料　１チーム　１０，０００円

11．競技規則　平成12年度ビーチハンドボール競技規則による

12．全日本出場権　成績により男女地区代表を決定する。

13．審　　判　審判は本部審判及び協力審判員、オフィシャルは参加チームに割り当てますのでお願い致します。

14．表　　彰　優勝：表彰状並びに優勝楯を授与

２位～３位：表彰状並びに楯を授与

15．宿　　舎

(１)参加申し込みの宿泊斡旋の有無を必ず記入し、別紙宿泊要項により申し込んでください。

(２)宿泊料は、１泊２食１人７，２００円です。

＊ユニフォーム及びゼッケンは各チームでご用意ください。

●4月の行事予定

■４月15日(土)

常務理事会

HAND BALL CONTENTS APR

柔らかな感触で、最適なバウンド！

new



PKCH3-AD DX
5,500円

新発売

new



PKCH2-AD DX
5,400円

new



PKCH1-ADJ
3,600円

アデランテ　前進

手縫い・国際公認球

★OFFICIAL BALL APPROVED BY★ J.H.A.

PKCH3-AD
4,600円

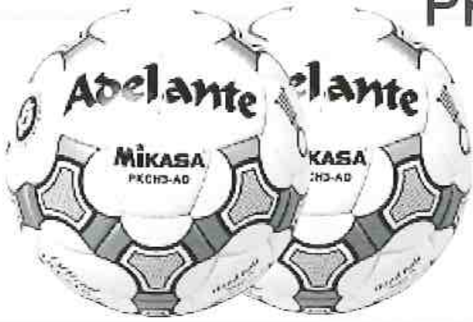


PKCH2-AD
4,500円





PKCH3-ADR
2,800円



PKCH2-ADR
2,700円

MIKASA®

明星ゴム工業株式会社

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四〇六号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十二年三月二十六日印刷 平成十二年四月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一 電話 代表 三四八一―二三六一 振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三
編集兼発行人 市原則之
価格は登録金に含む

